

JJAOT

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)

日本作業療法士協会誌

2021

7

- 2021・2022年度 役員名簿
- 2021年度部員・委員等名簿
- 2022年度 課題研究助成制度 募集要項

【協会活動資料】

- 第56回作業療法士国家試験について

重要なお知らせ

p.4に必ずお目通しください



一般社団法人

日本作業療法士協会

JJAOT

日本作業療法士協会誌

CONTENTS

The Journal of Japanese Association of Occupational Therapists (JJAOT)

目次 ● 2021年7月15日発行 第112号

- 6 2021・2022年度 役員名簿
- 7 2021年度 部員・委員等名簿
- Important NEWS
- 5 生涯教育制度：認定作業療法士新規の申請について

- 2 会議録 2021年度 第3回定例理事会抄録 (2021年6月)
- 3 協会各部署活動報告 (2021年5月期)
- 4 事務局からのお知らせ
- 協会活動資料
- 12 ●第56回作業療法士国家試験について
- 22 2022年度 課題研究助成制度 募集要項

- 24 学会だより③
- 第55回日本作業療法学会プログラム概要
- 26 『作業療法白書』 発刊に向けて⑦
- 白書はこのように使われている！
- 27 「協会員＝士会員」の実現に向けて③
- 作業療法普及・啓発のための協会と士会との協業
- 28 MTDLP実施・活用・推進のための情報ターミナル③②
- MTDLPに関する意見公募の結果報告
- 30 連 障害のある人のスポーツへの多様な参加を支援
載 するために⑬
- 東京パラリンピック競技大会への参加に向けた期待と準備
- 32 国際部 Information
- スウェーデンの高齢者に対する作業療法
—第12回国際企画プログラムのご案内—
- 34 総合事業5分間講読
- 地域支援はじめの一步～地域の一員となる～
- 36 窓～女性の協会活動参画促進のために～
- 芸と教養を兼ね備えた女性を目指して

- 37 2021年度 協会主催研修会案内 42 訃報
- 40 協会刊行物・配布資料一覧 43 求人広告
- 42 日本作業療法士連盟だより 44 編集後記



日時：2021年6月19日（土）13：00～17：28

方法：ZoomシステムによるWeb会議

出席：中村（会長）、香山、山本、宮口（副会長）、宇田、大庭、酒井、清水、関本、三澤（一）、三沢（幸）、村井（常務理事）、池田、岩佐、岡本（佳）、小林、佐藤、高島（千）、竹中、谷川、早坂、東（理事）、岩瀬、澤、長尾（監事）

陪席：小賀野、長井（担当）、谷津、杉田、高島（紀）、遠藤（千）、茂木、庄司（事務局）

I. 報告事項

1. 議事録

- 1) 2021年度第2回定例理事会（5月22日）書面報告
- 2) 2021年度定時社員総会（5月29日）書面報告
- 3) 2021年度第1回臨時理事会（5月29日）書面報告

2. 会長専決事項

- 1) 会員の入退会について 書面報告

3. 総務関連

- 1) 2021年度定時社員総会の開催報告について（香山副会長、長井総会議事運営担当）2021年度定時社員総会の開催状況、審議内容および結果等を報告した。
- 2) 2021年度以降のシステム開発について（経過報告）（香山副会長）6月7日に日本ユニシス社とキックオフ会議が開催された。契約の締結と本事業の進捗について説明した。
- 3) 2021年度の審議予定、予算申請・審議スケジュールについて（香山副会長、岡本理事）今後の協会組織体制の大枠が承認された後の課題別検討スケジュールの確認と予算申請・審議スケジュールが報告された。
- 4) 新規設置部署の英文表記について 書面報告

4. 財務関連

- 1) 2021年度4月期の収支状況について 書面報告

5. 学術関連

- 1) 第55回日本作業療法学会における一般演題および公募セミナーの選定について 書面報告

6. 制度対策関連

- 1) 公的病院精神科協会と共催の当事者が望む精神科作業療法在り方検討会企画研修会（案）（村井理事）当事者が望む精神科作業療法在り方検討会企画研修会（案）のカリキュラムを提案する。2日間の日程で平日開催を希望する。
- 2) 当事者の望む生活を実現する精神科の作業療法のあり方検討報告書（村井理事）精神科作業療法のあり方を検討した報告書について説明した。6月21日までパブリックコメントを求める。

7. 広報関連

- 1) 協会Webサイトのアクセスログ（2021年5月期）書面報告

8. 活動報告等

- 1) 会長及び業務執行理事の2021年5月期活動報告について 書面報告
- 2) 協会各部署の2021年5月期活動報告について 書面報告
- 3) 渉外活動報告について 書面報告
- 4) 他組織・団体等の協会代表委員について 書面報告
- 5) 日本作業療法士連盟活動報告（2021年5月～6月）について 書面報告
- 6) 2021年度第1回協会・連盟合同三役会議事録（2021年6月5日）書面報告
- 7) 訪問リハビリテーション振興財団の動きについて 書面報告

9. その他

（小林理事・白書委員会副委員長）7月三役会に調査試案を報告する予定である。

II. 審議事項

1. 2021年度の会務運営体制について（中村会長）公益目的事業部門、法人管理運営部門ともに、今期の運営体制（案）のような陣容で進めたい。→承認
2. 常務理事の選定について（中村会長）提案の8名を常務理事に選定したい。→承認
3. 教育部研修運営委員長の選任について（香山副会長・事務局長）前委員長の辞任に伴い、新委員長に、研修運営委員会の重点課題研修班長の長谷委員を推薦したい。→承認
4. 第57回日本作業療法学会の学会長の選任について（宮口副会長・学術部長）第57回作業療法学会の学会長に、作業療法教育および研究者育成に十分な実績のある長尾徹氏を推薦

したい。→承認

5. 2024アジア太平洋作業療法学会実行委員会（特設）の設置について（大庭常務理事・国際部長）第8回アジア太平洋作業療法学会（APOTC）の開催準備を進めるために特設委員会を設置したい。→承認

6. 2023年度からの協会組織体制について：検討課題1-①

- 1) 学術部の業務分掌（香山副会長・事務局長、宮口副会長・学術部長）2023年度以降の学術部の業務分掌は、現在と同様の分類で提案したい。今後新たな学術的事業が行われたとしても、この6項目から外れることはないと考えている。

→承認

- 2) 国際部の業務分掌（大庭常務理事・国際部長）2023年度以降の国際部の業務分掌は、現状を踏襲する形を提案したい。赤字で表記したアイデアの部分について意見を寄せていただきたい。→承認

7. 永年会員制度の設計（修正第3案）について（香山副会長・事務局長、岡本理事）

- ・永年会員を正会員の下位分類に位置づける。→承認
- ・年会費は必要経費相当分を限度に減額し、次回理事会で金額を提示する。→承認

8. 2022年度課題研究助成制度募集要項案について（宮口副会長・学術部長）指定課題に「地域高齢者の通いの場における作業療法の効果に関する研究」を加えたい。→承認

9. 学術誌『作業療法』の配布方法について（宮口副会長・学術部長）電子データとともに紙媒体の配布を継続し、配布方法を5年毎に見直す。→承認

10. 『作業療法学全書』第4版について（香山副会長・事務局長、三沢（幸）理事・教育部副部長）法人著作物とする方針を堅持し、協会が責任を持って作業療法のスタンダードを示す。総論を2023年度の、各論を2024年度の教科書採用に間に合わせるべく、作業療法学全書出版準備委員会を新たに組織し直す。人選は8月理事会で提案する。→承認

11. 2022年度重点活動項目の予備的検討について（香山副会長・事務局長、小賀野企画調整担当）今年度重点活動項目の年度末の達成見込み、その他の意見を7月の常務理事会までにいただき、8月理事会で2022年度重点活動項目の承認を得たい。→継続審議

12. 第四次作業療法5ヵ年戦略（2023～2027）策定作業の大枠について（香山副会長・事務局長、小賀野企画調整担当）・次期中期計画の策定に向け、第三次作業療法5ヵ年戦略の振り返りと評価等を検討し、策定の期限を2022年3月とする。→承認

- ・原案作成と工程管理の主体について、①理事を長としたワーキンググループ、②事務局内で案を作成し、事務局長が工程管理を行うという2案に対し、協会全体で運営するという①と②を合わせた第3案が出された。

→第3案で承認。（具体的文言は次回理事会で提案）

13. 2021年衆院選に向けての連盟提案の政策協定事項（案）について（中村会長）第49回衆議院議員選挙に向け、日本作業療法士連盟から示された政策協定事項（案）に対して、非遵行を行った議員への対応、理学療法士及び作業療法士の見直しの優先順位について意見が出された。→継続審議

14. 賛助会員の入会について（香山副会長・事務局長）クラブハウス株式会社から賛助会員（C会員）への入会申し込みがあり、必要書類が提出された。→承認

15. その他

- （高島理事・制度対策部副部長）リハビリテーション専門職団体協議会で日本理学療法士協会から出された診療報酬要望のうち、①精神療養病棟における摂食嚥下障害への対応の充実、②リハビリテーション医療の施設基準の見直し、③精神疾患患者に対する精神症状への運動療法の提供について、当協会は①のみ了承する。→承認

協会各部署 活動報告 (2021年5月期)

学術部

【本部】各委員会会計処理。
【学術委員会】事例報告登録制度（一般事例、MTDLP 事例）の運営・管理。作業療法マニュアルの編集とそのための Web 会議開催（精神科マニュアル、身体障害早期）、作成指針と執筆要領の修正。組織的学術研究体制における精神科領域の研究実施。課題研究助成制度成果報告書のホームページ掲載、2022 年度募集要項（案）の理事会上程準備。
【学術誌編集委員会】「作業療法」：査読管理および編集作業。編集会議および査読者研修会の準備。投稿規定・執筆要領の更新。投稿者との Web 上での話し合い実施。「Asian Journal of OT」：査読管理および編集作業と公開。
【学会運営委員会】学会運営会議開催。「日本作業療法学会優秀演題賞の表彰に関する規程」修正案、第 57 回日本作業療法学会開催地決定の理事会上程。第 55 回日本作業療法学会（Web）：参加登録受付。プログラム等のホームページ更新。企画セミナー採択通知。第 56 回日本作業療法学会（京都）：キックオフ会議開催。

教育部

【本部】生涯教育制度の検討、他。
【養成教育委員会】厚生労働省指定臨床実習指導者講習会：各学会開催協力、申請書類・報告書の確認業務、講義・演習に関する意見交換会開催。各養成校での ICF 教育の実態調査の原案作成。国家試験問題出題傾向や養成校からの意見検討および報告書作成。第 1 回作業療法士学校養成施設連絡会の実施、他。
【生涯教育委員会】システム開発および延期に伴う対応、受講記録移行検証作業、士会主催研修受講履歴登録確認、推進担当者への研修管理システム説明会日程調整。専門作業療法士制度の大学院連携アンケート実施、新規分野（脳血管障害分野）シラバス等検討。認定作業療法士手引書とリーフレット修正、再資格認定試験の時期・方法についての検討、認定作業療法士新規取得者および更新者アンケート項目見直しと回答集計。現職者共通・選択研修のシラバス・運用マニュアルの改編。2020 年度現職者共通・選択研修実績調査・アンケート実施。他団体・SIG 等の認定申請・報告書の修正、医療福祉 e チャンネルでの共通研修と MTDLP レポート確認、他。
【研修運営委員会】2021 年度専門作業療法士取得および認定作業療法士取得研修会、重点課題研修、養成教育関連研修の Web 研修会準備および開催。e ラーニング受講対応および新規コンテンツ作成準備。Web 研修会運営・会計マニュアル検討、他。
【教育関連審査委員会】JCORE 審査対象校 Web 説明会。第 1 回認定作業療法士認定および更新受付および審査準備。認定作業療法士取得研修修了試験質問および研修水準審査の準備。専門作業療法士更新受付および審査の準備。臨床実習指導施設認定（新規および更新）申請受付および審査準備、他。
【作業療法士全書編集委員会】原稿執筆および確認作業。出版社との調整、他。

制度対策部

【担当理事】診療報酬改定に向けた要望に関する検討。全国リハビリテーション医療関連団体協議会報酬対策委員会への参加。次期介護報酬改定に向けた厚生労働省との意見交換。法務省矯正局と刑務所等での作業療法士の活動に関する実態把握に向けた調整。
【医療保険対策委員会】①会員ポータルサイトに医療保険に関する情報提供。②会員からの制度に関する問い合わせ対応。③学術部マニュアル（精神科）への執筆協力。④調査・意見交換会に向けた準備（認知症班、精神科班）。
【介護保険対策委員会】①会員ポータルサイトに介護保険に関する情報提供。②令和 5 年度介護保険法改正、2024 年度介護報酬改定に向けた対応の検討。③調査・意見交換会に向けた準備。
【障害保健福祉対策委員会】①児童福祉領域の作業療法士意見交換会の機関誌報告。②学術部マニュアル（子どもの通所支援）への執筆協力。③日本特殊教育学会への自主シンポジウム登録。④就労支援フォーラム協働企画会議への参加。
【ICF 班】MTDLP 事例データ収集に向けた検討。
【司法班】活動の方向性に関する検討。

広報部

【広報委員会】ホームページ：アクセスログ検討。ホームページコンテンツ検討（小学生向け）。ホームページコンテンツ掲載準備（一般向け）。ホームページ管理・更新作業。その他：2023 年度組織改編に向けた広報部のあり方、業務分掌の検討（今後も検討を継続）。
【機関誌編集委員会】機関誌 5 月号発行。7 月号以降の執筆依頼、進行等の確認。

国際部

【全体】第 1 回部長委員会議、国際部会の開催（5 月 23 日）。
【国際委員会】アジア作業療法士協会交流会の小委員会開催（5 月 12 日）、発表者の確定。「海外研修助成制度」三部署合同会議の開催（5 月 18 日）。日本作業療法学会国際企画プログラムの収録準備。機関誌「国際部 Information」の原稿執筆。JANNET など他団体との連携。国際関連の問い合わせ対応。
【WFOT 委員会】WFOT からの連絡・アンケートへの対応。WHO ワーキンググループメンバーの募集。WFOT 声明文の E-vote での投票。Bulletin volume 76, issue 2 (2020) の目次の翻訳、協会ホームページ公開。

災害対策室

大規模災害を想定したシミュレーション訓練実施に向けた準備。国際医療技術財団 (JIMTEF) への活動協力。日本災害リハビリテーション支援協会 (JRAT) 活動への協力。災害支援ボランティア登

録の随時受付。

生活環境支援推進室

①事務局オンライン会議（5 月 27 日）。②生活行為工夫情報モデル事業：ブロックごとに事例登録・事例活用に向けた準備、事業報告書作成、新規参加士の登録。③福祉用具相談支援システム運用事業：参加士会ごとに相談対応。④ IT 機器レンタル事業：レンタル受付手配、R3 年度レンタル機器の調整、会員からの問い合わせ対応。

MTDLP 室

① MTDLP 拡大連絡会議（Web）に向けた議題等の検討。②機関誌連載の起案書を作成。③課題検討委員会（室部内委員会）の設置要綱と委員会の組織体制を検討。④課題一覧とロードマップの作成と検討。⑤ MTDLP 事例報告登録情報の会員外からの情報開示の検討。

47 都道府県委員会

①各ワーキンググループにて委員会に向けた検討、関連部署との調整。②第 1 回 47 都道府県委員会開催に向けた準備。③事前アンケートの実施。

地域包括ケアシステム推進委員会

委員による全国 6 ブロックごとの士会支援、連絡調整。ブロック会議の実施。全体会議の開催（Web：5 月 14 日）。2021 年度地域支援事業に関する臨時 Web 研修会開催に向けた準備。

運転と作業療法委員会

士会協力者および県士会からの問い合わせおよび相談対応。協会ホームページコンテンツの検討。Web 全国調査の準備。全体会議の開催（Web：5 月 16 日）。

「協会員＝士会員」実現のための検討委員会

全体会議の開催（5 月 13 日）。方策と工程表案の検討。機関誌への記事掲載、周知啓発活動。

障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会

第 2 回委員会（5 月 7 日）、第 3 回委員会（5 月 24 日）の開催。機関誌原稿の執筆。広報ツールとしての動画・チラシの製作。協会ホームページのテストページの作成、公開準備。2021 年重点課題研修会の企画、資料準備。

白書委員会

アンケートに関する打合せ（5 月 6 日・7 日・14 日）、アンケート項目検討会（5 月 21 日）の実施。機関誌原稿の作成。

事務局

【財務・会計】2021 年度の会費収納。社員総会用財務資料の作成。その他会計・経理処理。
【会員管理】会員新入会、異動による変更処理、特例再入会等の会員管理。員数計算実施。施設養成校管理システムの管理・メール対応。新入会希望者への振込用紙発送。海外会員への発送。刊行物の戻り処理。パスワード再発行に関する対応。研修受講カードの有料再発行に関する対応。士会員情報と協会員情報のデータ照合作業。会員情報のデータ収集。永年会員制度に関する検討。
【総務】三役会・理事会・社員総会・臨時理事会にかかる資料作成・開催補助・議事録作成。收受文書の確認・対応。会長のスケジュール調整・管理。依頼案件への対応。新コンピュータシステム 2 次開発の優先的な改修対応（短期的対応）、新規業者選定のための公募型プロポーザルの実施（5 月 14 日・17 日）と理事会への提案書類の作成。事務局職員の労務管理、勤務体制に関する検討。事務局備品・防災用グッズ等の整備。在宅勤務必要機器管理。Web 会議環境整備。協会会議室の貸出管理。理事用 Surface・携帯電話入れ替え準備。
【企画調整】2020 年度事業評価結果（重点活動項目関連活動、作業療法 5 ヶ年戦略関連活動）の社員総会への報告資料の作成。
【規約】倫理関連諸規程（改定、一部新規）、定款施行規則（改定）、日本作業療法学会優秀演題賞の表彰に関する規程（改定）の確認と理事会への審議上程。
【表彰】2021 年度の名誉会員表彰の表彰状・記念品等の準備作業。
【総会議事運営】2021 年度定時社員総会（5 月 29 日）の事前準備、社員への配付資料の作成と配信、議事運営に必要な書類の作成、会場設営、当日の開催・運営。社員との懇談会の開催。機関誌に掲載する開催速報の作成。次年度社員総会の会場予約。
【国内外関係団体との連絡調整】チーム医療推進協議会、日本作業療法士連盟、リハビリテーション専門職団体協議会（リハ 3 団体）、全国リハビリテーション医療関連団体協議会・報酬対策委員会、日本災害リハビリテーション支援協会 (JRAT)、厚生労働省、法務省、等々との連絡調整・会議参加 事務局運営など（継続）。
【福利厚生委員会】2019 年度待遇調査の結果取りまとめおよび報告書作成。機関誌のコラム「窓」執筆者の調整・依頼。女性相談窓口による相談対応。
【選挙管理委員会】2021 年度定時社員総会（5 月 29 日）における役員選挙の事前準備、実施（理事および監事の選任、補欠役員の選任、会長候補者の選出）、結果の取りまとめと報告。
【倫理委員会】倫理委員会の開催（5 月 12 日）。過去 2 年間の倫理問題事案の取りまとめと次期倫理委員会への引き継ぎ事項の確認。都道府県士会・その他会員・非会員から寄せられた倫理問題事案への対応。

事務局からのお知らせ

◎第 55 回日本作業療法学会 事前参加登録について

第 55 回日本作業療法学会は、Web 開催に変更いたしました。今年は、昨年実施したオンデマンド配信に加え、ライブ配信の準備も進めているところです。学会の参加登録は、2021 年度の日本作業療法士協会年会費の納入が条件となります。参加を希望している会員の方は、すみやかに 2021 年度の年会費をご納入願います。参加登録は、学会ホームページ (<https://www.c-linkage.co.jp/ot55/index.html>) からお願いいたします。

◎年会費をご納入ください

2021 年度の年会費をご納入ください。年度末までに年会費のお支払いがありませんと、会員資格を喪失し、種々の不利益が生じることとなります。お忘れにならないうちに、できるだけ早くお納めくださいますようお願いいたします。

協会よりお送りしているバーコードが印字されている払込票は郵便局やコンビニエンスストアのほか、LINE Pay、J-Coin Pay 請求書払い、ゆうちょ Pay 等でもご利用いただけます。ご都合に合わせて納入方法をご選択ください。振込用紙を紛失された方、金額が不明な方は、協会事務局 (kaihi@jaot.or.jp) までお問い合わせください。

なお、7 月中に年会費のご納入がなかった方には、8 月に協会事務局より督促状をお送りします。ご入金と行き違いになりました場合はご容赦ください。

◎ご自身の登録情報が最新かどうかをご確認ください！

協会に登録している勤務施設は現在の職場でしょうか。協会より会員所属施設宛に郵送物等をお送りしますと、既に退職済みとのことで返送されてくる場合があります。また、発送先を自宅宛とご指定いただいている場合、勤務施設に関する情報が更新されず、古い勤務施設の登録が残ったままになっている場合があります。協会にご登録いただいている施設にその会員が所属しているものと判断しますので、ご自身の登録している勤務施設情報が最新であるかどうかを確認し、もし古い情報のままでしたら修正・更新をお願いいたします。

【登録情報の確認方法】

協会ホームページより、会員ポータルサイトにログインし「基本情報変更」で登録情報の確認・修正が可能です。

※パスワードを忘失された方は再発行することができます（協会ホームページ>会員ポータルサイト>パスワードの再発行はこちら）。パスワード再発行には研修会受講カードが必要となりますのでお手元に準備して手続きをしてください。

◎休会に関するご案内

現在は 2022 年度（2022 年 4 月 1 日～ 2023 年 3 月 31 日）の休会を受け付け中です。休会制度の詳細および「Q&A」については協会ホームページをご覧ください（協会ホームページ>会員向け情報>諸手続き）。なお、2022 年度の休会を申請する方は 2021 年度の年会費をご納入のうえ、用紙は事務局までご請求ください。その他ご不明な点は協会事務局 (kaihi@jaot.or.jp) までお問い合わせください。

生涯教育制度： 認定作業療法士新規の申請について

○認定作業療法士新規申請の解説 ホームページの手続き方法から抜粋！

I. 協会ホームページにて、認定作業療法士新規申請の手続き方法を確認ください。

注意！

まず、手帳移行の申請が必要です。
手帳移行前には申請できません。



II. 会員ポータルサイトへログイン
生涯教育→各種申請→認定作業療法士新規申請ダウンロードをクリック

- 認定作業療法士新規申請に必要な書類をよく確認してから行ってください。



【ダウンロードされた書類】



III. 認定作業療法士新規申請を行う場合は、上記II. のダウンロードした書類に加え、受講履歴画面を印刷した書類ならびに必要な証明書類と併せて申請してください。

- 申請に必要な証明書類は、ホームページに掲載している認定作業療法士新規申請手続き方法を参照ください。



注意事項！

申請時には必ず、要件ならびに必要な添付証明書類を確認してください。

○問合せ先：協会事務局 ot-syougaiyouiku@jaot.or.jp

2021・2022年度 役員名簿

2021年度定時社員総会で23名の理事が選任され、その後の臨時理事会、2021年度第3回定例理事会で、会長、副会長、常務理事の選定および各理事の会務運営上の職務が決定されたので、2021・2022年度の役員名簿としてここにご報告する。

役職	氏名	担当職務	勤務体制
会長	中村 春基	会の代表、WFOT代表	常勤
副会長1	香山 明美	事務局長、広報部副部長、表彰審査会副委員長、白書委員会委員長 担当部署：災害対策室、47都道府県委員会	非常勤
副会長2	山本 伸一	組織率向上対策担当理事、表彰審査会委員長 担当部署：制度対策部、生活環境支援推進室、MTDLP室	非常勤
副会長3	宮口 英樹	学術部部長、組織率向上対策担当理事、研究倫理審査委員会委員長、 白書委員会委員 担当部署：教育部、国際部	非常勤
常務理事	宇田 薫	47都道府県委員会委員長、表彰審査会委員、倫理委員会副委員長、 組織率向上対策担当理事、女性会員の参画促進事業担当理事、 白書委員会委員	非常勤
常務理事	大庭 潤平	国際部部長、事務局次長、表彰審査会委員、 2024アジア太平洋作業療法学会実行委員会実行委員長、白書委員会委員	非常勤
常務理事	酒井 康年	制度対策部部長、生活環境支援室室長、 障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会委員長、 事務局次長、倫理委員会委員、表彰審査会委員、白書委員会委員	非常勤
常務理事	清水 兼悦	災害対策室室長、学術部副部長、運転と作業療法委員会担当理事、 白書委員会委員	非常勤
常務理事	関本 充史	広報部部長、制度対策部副部長、白書委員会委員	非常勤
常務理事	三澤 一登	教育部部長、事務局次長、白書委員会委員	非常勤
常務理事	三沢 幸史	「協会員＝士会員」実現のための検討委員会委員長、教育部副部長、 白書委員会副委員長	非常勤
常務理事	村井 千賀	MTDLP室室長、学術部副部長、制度対策部副部長、 女性会員の参画促進事業担当理事	非常勤
理事	池田 望	国際部副部長	非常勤
理事	岩佐 英志	47都道府県委員会副委員長、表彰審査会委員、 女性会員の参画促進事業担当理事	非常勤
理事	岡本 佳江	事務局次長（財務担当）、表彰審査会委員、 女性会員の参画促進事業担当理事	非常勤
理事	梶原 幸信	制度対策部副部長、女性会員の参画促進事業担当理事	非常勤
理事	小林 毅	組織率向上対策担当理事、災害対策室副室長、47都道府県委員会副委員長、 白書委員会副委員長、表彰審査会委員	非常勤
理事	佐藤 孝臣	制度対策部副部長、地域包括ケアシステム推進委員会担当理事	非常勤
理事	高島 千敬	制度対策部副部長、表彰審査会委員	非常勤
理事	竹中佐江子	教育部副部長、47都道府県委員会副委員長、 運転と作業療法委員会担当理事、女性会員の参画促進事業担当理事	非常勤
理事	谷川 真澄	MTDLP室副室長、地域包括ケアシステム推進委員会担当理事	非常勤
理事	早坂 友成	学術部副部長、教育部副部長	非常勤
理事	東 祐二	教育部副部長、生活環境支援推進室副室長	非常勤
監事	岩瀬 義昭	研究倫理審査委員会委員	非常勤
監事	澤 俊二		非常勤
監事	長尾 哲男	研究倫理審査委員会委員	非常勤

2021年度 部員・委員等名簿

(2021年6月30日現在)

学 術 部		泉 良太(16302) 岩波 潤(29276)	
部長	宮口 英樹(4693)	天野 暁(48613)	
副部長	清水 兼悦(2755)		
副部長	村井 千賀(965)		
副部長	早坂 友成(15377)		
学術委員会	委員長 東 登志夫(3118)		
	小林 正義(1908) 辻 善城(1916)		
	加藤 寿宏(2003) 小林 毅(2057)		
	小川 敬之(2183) 仙石 泰仁(2243)		
	谷 隆博(2318) 石川 隆志(2471)		
	高見 美貴(2509) 竹原 敦(2863)		
	新宮 尚人(3202) 岩永 竜一郎(3666)		
	小松 則登(4153) 森田 浩美(4225)		
	笹田 哲(4380) 竹内 さをり(4448)		
	西田 征治(4452) 小林 法一(4718)		
	黒澤 淳二(4800) 近野 智子(4816)		
	石附 智奈美(4907) 稲富 宏之(4967)		
	中島 そのみ(4973) 谷村 厚子(5036)		
	柴田 八衣子(5344) 清野 敏秀(5628)		
	田平 隆行(5952) 内藤 泰男(6124)		
	上城 憲司(7306) 芳賀 大輔(8509)		
	山本 泰雄(9781) 中村 裕二(10136)		
	田中 宏明(11497) 田村 大(12381)		
	友利 幸之介(13847) 小野 かおり(14578)		
	中村 泰久(15329) 長山 洋史(16176)		
	澤田 辰徳(16198) 泉 良太(16302)		
	田中 浩二(16974) 千見寺 貴子(16989)		
	杉村 直哉(18867) 奥谷 研(18873)		
	有川 真弓(19370) 竹林 崇(19899)		
	石橋 裕(19904) 坪井 理佳(20780)		
	山口 智晴(21991) 高木 雅之(22098)		
	守谷 梨絵(23923) 星野 藍子(24409)		
	三浦 晃(24873) 佐野 哲也(25011)		
	助川 文子(25398) 塩田 繁人(25815)		
	森元 隆文(26059) 北上 守俊(26152)		
	田中 亮(27081) 加藤 恒平(30622)		
	熊狼 妙子(32598) 島田 岳(32601)		
	久米 裕(34678) 中西 康祐(36067)		
	後藤 恵利子(37466) 伊藤 崇(37610)		
	本多 伸行(37688) 西浦 裕子(37914)		
	木下 亮平(38916) 石田 周大(39859)		
	河埜 康二郎(40371) 鈴木 真(40388)		
	木村 佳奈(41077) 徳永 瑛子(43341)		
	大野 勘太(44455) 島山 久司(45796)		
	林 良太(48490) 麓 文太(49337)		
	福原 啓太(50399) 仁部 那美(53372)		
	佐藤 大輔(57318)		
学術誌編集委員会	委員長 新宮 尚人(3202)		
	中村 眞理子(1971) 加藤 拓彦(1978)		
	佐々木 学(2129) 仙石 泰仁(2243)		
	石井 良和(3140) 久野 真矢(3349)		
	斎藤 和夫(4257) 大堀 具視(4267)		
	石附 智奈美(4907) 中島 そのみ(4973)		
	大野 宏明(7279) 能登 真一(7785)		
	小澤 恭子(8493) 齋藤 健司(9046)		
	務台 均(9930) 三木 恵美(10346)		
	竹田 里江(11477) 山根 伸吾(12017)		
	友利 幸之介(13847) 高橋 香代子(16784)		
	佐々木 努(17317) ボンジェ ペイター(18745)		
	金谷 匡紘(19606) 川又 寛徳(20314)		
	山田 恭平(26737)		
学会運営委員会	委員長 能登 真一(7785)		
	柴田 克之(1300) 村田 和香(1403)		
	長尾 徹(1576) 石川 隆志(2471)		
		教育 部	
		部長 三澤 一登(1338)	
		副部長 三沢 幸史(2014)	
		副部長 竹中 佐江子(17751)	
		副部長 早坂 友成(15377)	
		副部長 東 祐二(2077)	
養成教育委員会	委員長 鈴木 孝治(1182)		
	伊藤 直子(773) 佐藤 真一(928)		
	村井 千賀(965) 中原 留美子(1048)		
	佐藤 善久(1139) 津田 勇人(1241)		
	馬場 孝(1331) 出田 めぐみ(1485)		
	陣内 大輔(1653) 高畑 進一(1804)		
	山田 英徳(1988) 向 文緒(2039)		
	清水 誠(2090) 小林 隆司(2104)		
	吉田 文(2437) 丹羽 敦(2464)		
	水島 眞由美(2539) 鈴木 憲雄(2889)		
	伊藤 祐子(3547) 吉野 智佳子(4189)		
	中島 ともみ(4577) 西方 浩一(4975)		
	佐藤 純(6017) 遠藤 浩之(6661)		
	齋藤 久恵(7523) 松本 嘉次郎(8639)		
	山田 将之(9812) 小林 幸治(9929)		
	三橋 幸聖(12768) 岩崎 也生子(13468)		
	酒野 直樹(13470) 山崎 大輔(13960)		
	徳地 亮(14026) 中村 泰久(15329)		
	浦田 健太郎(15820) 久留宮 なぎ砂(16493)		
	高橋 香代子(16784) 田中 浩二(16974)		
	白砂 寛基(17401) 湯澤 大輔(18827)		
	鈴木 達也(19523) 中川 与四郎(19572)		
	吉田 亮平(22151) 宮寺 寛子(26456)		
	瀧 功(26544) 草川 裕也(28929)		
	川合 康夫(31237) 宮寺 亮輔(31660)		
	首藤 智一(33789) 中本 久之(34823)		
	吉田 太樹(39910) 下平 剛司(40368)		
	藤村 健太(44535) 青木 啓一郎(44521)		
	藤井 啓介(45596) 太田 皓文(50158)		
	角田 孝行(54272) 松下 航(62126)		
生涯教育委員会	委員長 高木 勝隆(4221)		
	辻 薫(744) 中里 瑠美子(1339)		
	鈴木 由美(1344) 高畑 進一(1804)		
	小市 健二(1981) 長谷川 敬一(2037)		
	岡野 昭夫(2298) 吉田 文(2437)		
	西出 康晴(2522) 東川 哲朗(2858)		
	田尻 寿子(3429) 宇田 薫(3515)		
	濱砂 美幸(3667) 木瀬 憲司(4041)		
	酒井 浩(4461) 石附 智奈美(4907)		
	稲富 宏之(4967) 藤嶋 聖子(6249)		
	洲野 浩二(6850) 中居 真紀子(7049)		
	上城 憲司(7306) 芳賀 大輔(8509)		
	三木 恵美(10346) 土田 真也(11019)		
	長井 陽海(11748) 山根 伸吾(12017)		
	岩根 達郎(12164) 杉谷 武人(14616)		
	横山 由梨子(15012) 川村 明代(15517)		
	武藤 光弘(22941) 富永 雅子(26179)		
	森 志勇士(29611) 砂川 耕作(29872)		
	小野山 絢香(36155) 高田 善栄(44512)		
	天野 暁(48613) 池部 淳(50057)		
	清水 隆志(51102)		
	(生涯教育制度推進委員)		
	金谷 匡紘(19606) 小枝 周平(25206)		
	鈴木 康也(10370) 大場 綾希子(22556)		
	川野辺 穰(5908) 小川 友美(2102)		

		高田 善栄(44512)	寛 智裕(35268)
		渡邊 真一(32906)	柴田 全利(20568)
		鈴木 香織(16410)	野口 晴康(18415)
		下岡 隆之(13700)	奥原 孝幸(5468)
		大桃 貴博(45546)	有泉 宏紀(21375)
		田中 幹敏(31071)	森 進之介(58251)
		桂 靖典(26855)	山田 英二(12015)
		林 節也(19214)	秋山 尚也(15041)
		富山 直輝(7656)	福井 麻貴(30302)
		竹内 貴記(24979)	林 佳宏(43141)
		福井 幸恵(2031)	進藤 真央(65364)
		木納 潤一(30370)	杉谷 武人(14616)
		北山 朋宏(7531)	岩本 悠(28272)
		守山 峻(43693)	山崎 隆二(39109)
		村上 泉(11991)	小森 和樹(23554)
		小松 博彦(8701)	沖 信吾(24097)
		香川 宗祐(17433)	宮尾 京介(38593)
		中倉 孝行(22153)	片田 美咲(5516)
		坂田 亮(23285)	山崎 翔太(44849)
		柚木崎 雅志(22384)	黒木 貴博(40181)
		土田 真也(11019)	
研修運営委員会	委員長	長谷 麻由(6311)	
		丹羽 敦(2464)	松田 隆治(2540)
		加藤 雅子(3691)	佐藤 嘉晃(3907)
		江渡 義晃(5698)	磯貝 理栄(5737)
		五十嵐 千代子(5870)	岡庭 隆門(6680)
		青山 克実(7253)	淵上 敬史(7870)
		小松 博彦(8701)	中浦 俊一郎(8978)
		今宮 正彦(9610)	小林 幸治(9929)
		福家 亜希子(10528)	塚田 徹(10983)
		河本 聡志(11271)	三橋 幸聖(12768)
		上田 章弘(12952)	林 亜遊(14044)
		小林 由美(15188)	阿部 英人(15336)
		中島 龍彦(15868)	鈴木 俊成(16083)
		吉澤 いづみ(16245)	島崎 寛将(16628)
		十河 正樹(17010)	田口 真司(17115)
		山川 公彦(17644)	篠森 丞(18151)
		阿瀬 寛幸(19021)	池知 良昭(19033)
		安田 耕一郎(19576)	若本 隆司(19810)
		齋藤 洋平(20093)	柿崎 崇(20961)
		奥村 昌弘(21303)	大塚 英樹(22031)
		永田 敬生(23483)	織田 靖史(24799)
		伊藤 篤史(25237)	廣田 洋一(25625)
		田中 吉広(26273)	和田 英峰(26368)
		井手 啓介(26907)	澄川 幸志(27582)
		大塚 昭宏(28663)	中村 剛(30083)
		櫻井 卓郎(30621)	原田 祐輔(30942)
		北田 泰敏(31262)	大熊 将平(31473)
		福元 正伸(31953)	三宅 一正(31999)
		川崎 祐太郎(32545)	近藤 健(35937)
		長沼 俊哉(36720)	杉野 達也(36819)
		吉田 彬人(38577)	金子 隆生(40207)
		小島 好(41313)	市川 志帆(41555)
		國武 亜由美(41693)	須崎 優介(43388)
		山田 竜也(43410)	池谷 政直(44458)
		高田 善栄(44512)	松本 拓也(48486)
		横山 航太(49721)	太田 皓文(50158)
		井上 由貴(51446)	玖島 弘規(51567)
		大谷 将之(53603)	後藤 拓見(55777)
		上野 佳美(59539)	内堀 謙吾(65539)
		長谷川 謙人(71365)	
教育関連審査委員会	委員長	佐竹 勝(426)	
		山田 孝(495)	大黒 一司(1112)
		青山 宏(1266)	五十嵐 市世(1284)
		澤田 昌宏(1319)	徳永 千尋(1531)

	谷村 浩子(1545)	千島 亮(1569)
	藤部 百代(1583)	山田 大豪(1611)
	陣内 大輔(1653)	加藤 拓彦(1978)
	向 文緒(2039)	岡野 昭夫(2298)
	坂田 祥子(2434)	深谷 直美(2667)
	池田 望(3150)	仲辻 良仁(3996)
	大久保 美也子(4515)	中島 ともみ(4577)
	佐々木 俊二(5785)	佐藤 大介(10936)
	有久 勝彦(14004)	関森 英伸(14859)
	古川 恭授(20083)	鷹左右 由紀(21376)
	金谷 圭子(25187)	佐藤 祐樹(28292)
	金子 隆生(40207)	

制度対策部		
	部長	酒井 康年(18655)
	副部長	関本 充史(16960)
	副部長	村井 千賀(965)
	副部長	梶原 幸信(4458)
	副部長	佐藤 孝臣(4084)
	副部長	高島 千敬(10629)
		鈴木 孝治(1182)
		能登 真一(7785)
		田村 大(12381)
		塩田 繁人(25815)
		河埜 康二郎(40371)
医療保険対策委員会	委員長	藤岡 晃(8809)
		渡邊 忠義(1434)
		楠原 敦子(4629)
		上城 憲司(7306)
		宇都宮 妃美(10655)
		長谷川 利夫(16416)
		石浦 佑一(16635)
		佐藤 嘉孝(19992)
		村島 久美子(24551)
		水本 雄介(26399)
		合歡垣 紗耶香(33595)
		青柳 政則(74836)
介護保険対策委員会	委員長	土居 義典(20190)
		山下 陽子(6915)
		大内 義隆(8453)
		澤潟 昌樹(13351)
		伊藤 篤史(25237)
		都甲 幹太(32656)
		淵上 敬史(7870)
		茂木 有希子(9797)
		宮本 昌寛(19157)
		工藤 摂子(31206)
		石井 淳一(87192)
障害福祉対策委員会	委員長	渡邊 忠義(1434)
		高森 聖人(3774)
		野々垣 睦美(7502)
		大田 兼寛(9063)
		峰野 和仁(12921)
		小松 洋平(15491)
		高橋 章郎(18859)
		先成 聖(20269)
		嘉門 邦岳(22567)
		渡邊 雄介(23041)
		吉岡 和哉(28404)
		中越 太一(30440)
		田坂 翔太(34765)
		塩津 裕康(36841)
		安部 恵理子(45091)
		今井 悠人(54963)
		岸 良至(4292)
		宮崎 宏興(8636)
		吉田 雅紀(10244)
		遠藤 真史(14858)
		石原 詩子(18769)
		有川 真弓(19370)
		仲地 宗幸(21292)
		千葉 由香里(22814)
		金川 善衛(24455)
		野崎 智仁(29859)
		本間 嗣崇(33024)
		山本 智美(35624)
		山口 理貴(42015)
		久野 誠(52537)

広報部		
	部長	関本 充史(16960)
	副部長	香山 明美(1143)
広報委員会	委員長	岡本 宏二(2910)
		磯野 弘司(8781)
		野崎 智仁(29859)
		山口 理貴(42015)

機関誌編集委員会	委員長	香山 明美(1143)
		岡本 宏二(2910) 磯野 弘司(8781)
		米井 浩太郎(10663) 浅倉 恵子(13254)
		岡村 忠弘(17494) 野崎 智仁(29859)
		山口 理貴(42015)

国際部		
部長	大庭 潤平(8129)	
副部長	池田 望(3150)	
国際委員会	委員長	吉田 美穂(3107)
		渡邊 雅行(1537) 春原 るみ(1832)
		市川 真理子(6202) 安倍 あき子(7237)
		森下 賀子(9810) 友淵 可乃子(11283)
		石川 陽子(11445) 石井 清志(17623)
		西本 敦子(20122) 山本 清治(21770)
		李 範奭(23762) 野田 綾子(27646)
		松崎 理佐(29920) 田中 紗和子(31545)
		寺村 晃(32495) 清水 ゆり恵(36865)
		吉田 太樹(39910) 毛利 友美(42432)
		大槻 美佳(43577) 奥田 美咲(46886)
		甘利 琢磨(50106) 岩吹 綾子(58892)
		下出 優(62269) 王 尹容(75300)
		塩田 渡留侍(75485) 佐野 哲也(25011)
		中島 そのみ(4973) 長谷 麻由(6311)
		吉田 文(2437)
	WFOT委員会	委員長
		佐藤 善久(1139) 石橋 英恵(2089)
		水野 威(10089) ボンジェ ベイター(18745)
		飯塚 亜紀(23899) 並木 千裕(35147)
	WFOT代表	
	代表	中村 春基(548)
	第1代理	高橋 香代子(16784)
	第2代理	佐藤 善久(1139)

災害対策室	
室長	清水 兼悦(2755)
副室長	小林 毅(2057)
	久保田 美代子(2528) 大越 満(5563)
	渡部 祐介(7147) 今野 和成(14102)
	信澤 直美(14583) 村岡 健史(16577)
	根岸 昌(25907) 土器屋 秀吉(37868)
	高橋 大輝(40434) 門脇 優(70011)

生活環境支援推進室	
室長	酒井 康年(18655)
副室長	東 祐二(2077)
	田中 勇次郎(517) 浅生 弘美(1070)
	櫻木 美穂子(1076) 金城 正治(1251)
	渡邊 慎一(1264) 寺田 佳世(1411)
	宗近 真理子(1704) 濱 昌代(1781)
	中村 敏浩(1902) 橋本 年代(2085)
	松本 潔(2444) 宮永 敬市(2554)
	船谷 俊彰(2600) 中川 正己(2632)
	鴨下 賢一(2963) 岩佐 英志(3126)
	松本 琢磨(3249) 大平 純江(3311)
	淡野 義長(4297) 林 正春(4608)
	北島 栄二(4713) 内田 正剛(4715)
	磯貝 理栄(5737) 田中 栄一(6526)
	松本 嘉次郎(8639) 長谷 里恵(8820)
	富田 昭(9620) 金子 茂稔(10385)
	森田 傑(10697) 塚原 緑(10853)
	島ノ江 寿(11292) 高山 悠二(11967)
	樺山 貴子(12367) 松本 和広(15264)
	高橋 知義(15806) 山下 剛正(16239)

	永原 祐二(16370)	松下 祐二(16461)
	土居 道康(18149)	篠森 丞(18151)
	河津 聡(18684)	金子 大輔(18773)
	岡本 博行(19760)	山川 愛(20409)
	内山 美枝子(20998)	小山 智彦(21016)
	糸賀 孝(21847)	桑田 哲人(22586)
	沼田 一恵(24169)	真部 敦(24748)
	植田 友貴(26035)	渋谷 亮仁(26259)
	小玉 武志(28634)	露崎 雄太(30007)
	大仲 洋太郎(30128)	小林 大作(31954)
	戸塚 香代子(32661)	泉 拓也(34643)
	幸野 直子(35195)	寺井 淳(35852)
	田畑 雄吉(37844)	須藤 誠(38501)
	中川 真人(38584)	古賀 暢(39999)
	山中 基司(40397)	織 哲也(41215)
	善明 史恵(41750)	加藤 直樹(41915)
	原 圭祐(43493)	林 朋一(43934)
	大和 千裕(45205)	湯脇 稔(48762)
	佐喜眞 要(50055)	加藤 佳子(53266)
	太田 智之(54122)	山崎 あゆみ(54917)
	水野 純平(58003)	中村 祐子(59118)
	阿南 啓太(60277)	斎藤 梨菜(62733)

MTDLP室	
室長	村井 千賀(965)
副室長	谷川 真澄(2266)
	大場 耕一(2900) 紅野 勉(3186)
	竹内 さをり(4448) 土井 勝幸(6054)
	小林 央(10862) 西井 正樹(18028)
	高橋 啓吾(18538) 柴田 美雅(22796)
	中塚 聡(39472) 南 庄一郎(39488)
	佐々木 昌平(45820)

47都道府県委員会	
委員長	宇田 薫(3515)
副委員長	岩佐 英志(3126)
副委員長	小林 毅(2057)
副委員長	竹中 佐江子(17751)
	田中 勇次郎(517) 大黒 一司(1112)
	竹田 寛(1325) 高橋 敏弘(1373)
	松本 信(1389) 長尾 徹(1576)
	平松 真奈美(1578) 池之上 卓治(1658)
	原 長也(1711) 藤原 瀬津雄(1918)
	長谷川 敬一(2037) 稲垣 毅(2309)
	坂田 祥子(2434) 西出 康晴(2522)
	竹中 祐二(2665) 津輪元 修一(2752)
	清水 兼悦(2755) 東川 哲朗(2858)
	大場 耕一(2900) 山口 洋一(3021)
	山本 伸一(3167) 沖 英一(3438)
	宇田 英幸(3711) 高森 聖人(3774)
	新井 健五(3854) 田中 一彦(3913)
	仲田 和恵(4363) 大月 肇(4443)
	内田 正剛(4715) 高木 節(5515)
	川 雅弘(5693) 岡庭 隆門(6680)
	平山 聡(7282) 木下 大介(7541)
	比嘉 靖(7879) 神保 武則(8270)
	四方 秀人(8533) 松本 嘉次郎(8639)
	段 敬史(9537) 小林 央(10862)
	須貝 里幸(11340) 上田 裕久(11469)
	関本 充史(16960) 西井 正樹(18028)
	齋藤 洋平(20093) 田嶋 神智(22805)
	木岡 和実(24705)

地域包括ケアシステム推進委員会		
委員長	三浦 晃(24873)	
	谷川 真澄(2266)	小岩 伸之(3962)
	佐藤 孝臣(4084)	長谷 麻由(6311)
	三宅 神奈(7177)	三原 裕子(7225)
	新泉 一美(8695)	入口 晴香(11458)
	松尾 明美(12095)	遠藤 陵晃(24766)
	岸本 直子(24983)	辰己 一彦(35638)
	若林 佳樹(46052)	

運転と作業療法委員会		
委員長	藤田 佳男(9351)	
	小倉 由紀(4313)	宮口 英樹(4693)
	澤田 辰徳(16198)	西 則彦(16729)
	山田 恭平(26737)	伊賀 博紀(61719)

選挙管理委員会	
委員長	伊藤 貴子(1946)

倫理委員会		
委員長	太田 睦美(541)	
	倉富 眞(746)	高畑 進一(1804)
	坂田 祥子(2434)	宇田 薫(3515)
	磯野 弘司(8781)	酒井 康年(18655)
	片岡 聡子(19271)	

研究倫理審査委員会		
委員長	宮口 英樹(4693)	
	岩崎 テル子(446)	岩瀬 義昭(1223)
	長尾 哲男(301)	長谷川 幹(外部)
	山田 雅康(外部)	山本 一志(外部)

表彰審査会		
委員長	山本 伸一(3167)	
	香山 明美(1143)	宇田 薫(3515)
	大庭 潤平(8129)	酒井 康年(18655)
	岩佐 英志(3126)	岡本 佳江(2722)
	小林 毅(2057)	高島 千敬(10629)

2024アジア太平洋作業療法学会実行委員会		
委員長	大庭 潤平(8129)	
	高橋 香代子(16784)	石橋 英恵(2089)
	岡本 佳江(2722)	能登 真一(7785)
	池田 望(3150)	清水 兼悦(2755)
	早坂 友成(15377)	関本 充史(16960)
	安倍 あき子(7237)	

障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会		
委員長	酒井 康年(18655)	
	香山 明美(1143)	三澤 一登(1338)
	山本 伸一(3167)	織田 靖史(24799)
	角田 慎司(27452)	小黒 修(47787)

白書委員会		
委員長	香山 明美(1143)	
副委員長	小林 毅(2057)	
副委員長	三沢 幸史(2014)	
	宮口 英樹(4693)	三澤 一登(1338)
	酒井 康年(18655)	清水 兼悦(2755)
	宇田 薫(3515)	大庭 潤平(8129)
	関本 充史(16960)	

「協会員＝士会員」実現に向けた検討委員会(2022.3.31まで)		
委員長	三沢 幸史(2014)	
	岡本 佳江(2722)	藤川 信(7075)
	関本 充史(16960) 中里 武史(21874)	

事務局		
局長	香山 明美(1143)	
局次長	三澤 一登(1338)	
局次長	酒井 康年(18655)	
局次長	大庭 潤平(8129)	
局次長	岡本 佳江(2722)	
企画調整担当	小賀野 操(1996)	
規約担当	木田 佳和(21393)	
統計情報担当	藤川 信(7075) 辰巳 浩崇(21804)	
総会運営担当	長井 陽海(11748)	
福利厚生委員会	委員長	長谷川 利夫(16416)
	川原 薫(834)	上遠野 純子(2865)
	齋藤 嘉子(3853)	中澤 公恵(5113)
	市川 真理子(6202)	鈴木 健太郎(8237)
	岩根 達郎(12164)	宅間 努(16149)
	田中 忍(21743)	上野 涼子(27309)
	松村 加奈子(28177)	富樫 央(46792)
	菅原 美樹(48408)	樋口 賢太(48517)
	牛丸 憲史(49147)	青木 藍水(62460)
職員	事務長	宮井 恵次
	主任	庄司 志保
	主任	谷津 光宏
	主任	杉田 潤一郎
	主任	遠藤 千冬(17881)
	主任	高島 紀美子(4236)
		山下 智子
		霜田 紗江
		荒川 小粋
		三上 直剛(15854)
		茂木 優希(21071)
		久保田 光
		小宮山 瑠子
		大胡 陽子
		茂呂 遥
		賛田 光恵
		上 梓
		和久 恵美(3213)
		遠藤 真琴

協会各部署の部員・員数と女性比率

部署名		部員・委員数	女性会員	女性比率 (%)
学術部	部長・副部長	4	1	25
	学術委員会	82	21	26
	学術誌編集委員会	26	7	27
	学会運営委員会	8	1	12
	小計	123	30	24
教育部	部長・副部長	5	1	20
	養成教育委員会	59	16	27
	生涯教育委員会	40	15	38
	(生涯教育推進委員)	47	8	17
	研修運営委員会	78	12	15
	教育関連審査委員会	30	9	30
	小計	258	61	24
制度対策部	部長・副部長	6	1	17
	部員 (司法班・ICF班)	9	1	11
	医療保険対策委員会	21	6	29
	介護保険対策委員会	11	3	27
	障害福祉対策委員会	30	6	20
	小計	77	17	22
広報部	部長・副部長	2	1	50
	広報委員会	4	0	0
	機関誌編集委員会	8	2	25
	小計	14	3	21
国際部	部長・副部長	2	0	0
	国際委員会	30	21	70
	WFOT委員会	7	4	57
	小計	39	25	64
災害対策室		12	2	17
生活環境支援推進室		82	22	27
MTDLP室		13	3	23
47都道府県委員会		51	5	10
地域包括ケアシステム推進委員会		14	6	43
運転と作業療法委員会		7	1	14
事務局	事務局長・事務局次長	5	2	40
	企画調整担当	1	1	100
	規約担当	1	0	0
	統計情報担当	2	0	0
	総会運営担当	1	0	0
	福利厚生委員会	17	9	53
	小計	27	12	44
選挙管理委員会		1	1	100
倫理委員会		8	3	38
研究倫理審査委員会		7	1	14
表彰審査会		9	3	33
2024 アジア太平洋作業療法学会実行委員会		10	4	40
障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会		7	1	14
白書委員会		10	2	20
協会=士会員実現に向けた検討委員会		5	1	20
合計		771	203	26

員数はすべて延べ人数

第 56 回作業療法士国家試験について

国家試験問題指針検討班による検討結果

教育部 養成教育委員会 国家試験問題指針検討班

教育部養成教育委員会国家試験問題指針検討班（以下、検討班）では、2021年5月30日に第2回検討班会議を開催した。第1回検討班会議で取りまとめられた「国家試験の問題についての意見書」は、本誌第109号（2021年4月15日発行）に掲載した。

1. 国家試験合格者の動向・推移・入学定員との割合

2021年2月21日に実施された第56回作業療法士国家試験は、3月23日に合格発表があり、全体の合格率が81.3%（4,510人）で、前回の合格率87.3%（5,548人）より6ポイント下がった。これは、過去5年間（第51回から55回）の合格率の平均（81.2%）にほぼ等しい値であり、理学療法士の合格率との差もなかった（図1、図2）。

合格率を新卒・既卒別にみると、新卒者のみの合格率は88.8%（4,345人）で、前回の94.2%（4,515人）より5.4ポイント下がった。また、既卒者の合格率は25.2%（165人）で、前回の66.3%（1,033人）より41.1ポイント下がり、昨年度までの3年連続の上昇から一転して、大幅な合格率の低下、合格者数の減少となった（図3）。前回合格者数が大幅に増加し、5,500人を超える合格者数となったのに対し、今回は前々回とほぼ同じ数になったが、これは既卒者の合格者数の変動によるところが大きい。

2017年度と2018年度の養成校入学定員がおよそ7,600人であるのに対し、新卒の出願者が5,051人、新卒受験者が4,895人、新卒合格者は4,345人となっており、入学定員に対する新卒合格者はおよそ6割となっている。

2. 国家試験問題について

二択問題（X（2）問題）は、今回23問（前回24問）とほぼ横ばいで、分野別でも、専門基礎（共通）問題で15問（前回14問）、専門問題で8問（前回10問）、そのうち実地問題3問で、昨年同様の傾向であった。

検討班では、国家試験問題の妥当性に関するアンケートを211校（223課程）に郵送し、Webあるいはメールによる回答を88校（前回122校）から得た。指摘の対象となった問題は、200問中49問であった。検討班ではそのうち1問を複数の選択肢を正解とすることが望ましいと指摘し、1問を採点除外が望ましいと指摘した。また、6問について、用語や設問の表現が不適切で選択肢の理解に戸惑う等その他の意見として指摘した。詳細は、本誌第109号（2021年4月15日発行）を参照していただきたい。

合格発表では、専門基礎（共通）問題の2問（午前の間53、午後の間67）が複数の選択肢を正解とするとされ、2問（午前の間70、午後の間59）および専門問題の1問（午前の間8）が採点除外とされた。そのうち1問が検討班の指摘した問題と、1問がその他の意見として提出した問題と一致した。午前の間70については、検討班としては複数の選択肢を正解とすることが望ましいと指摘したが、採点除外とされた。検討班としては取り上げなかったが、午前の間8については採点除外の対象となり、午後の間67については、複数の選択肢を正解とするとされた。

以下に、(1) その他の意見で指摘した問題、(2) 養成校から指摘が多かったが、検討班として意見書で取り上げなかった問題、について検討の結果を示す。

回数	39回	40回	41回	42回	43回	44回	45回	46回	47回	48回	49回	50回	51回	52回	53回	54回	55回	56回
OT	95.5	88.4	91.6	85.8	73.6	81	82.2	71.1	79.7	77.3	88.6	77.5	87.6	83.7	77.6	71.3	87.3	81.3
PT	97.9	94.9	97.5	93.2	86.6	90.9	92.6	74.3	82.4	88.6	83.7	82.7	74.1	90.3	81.4	85.8	86.4	79

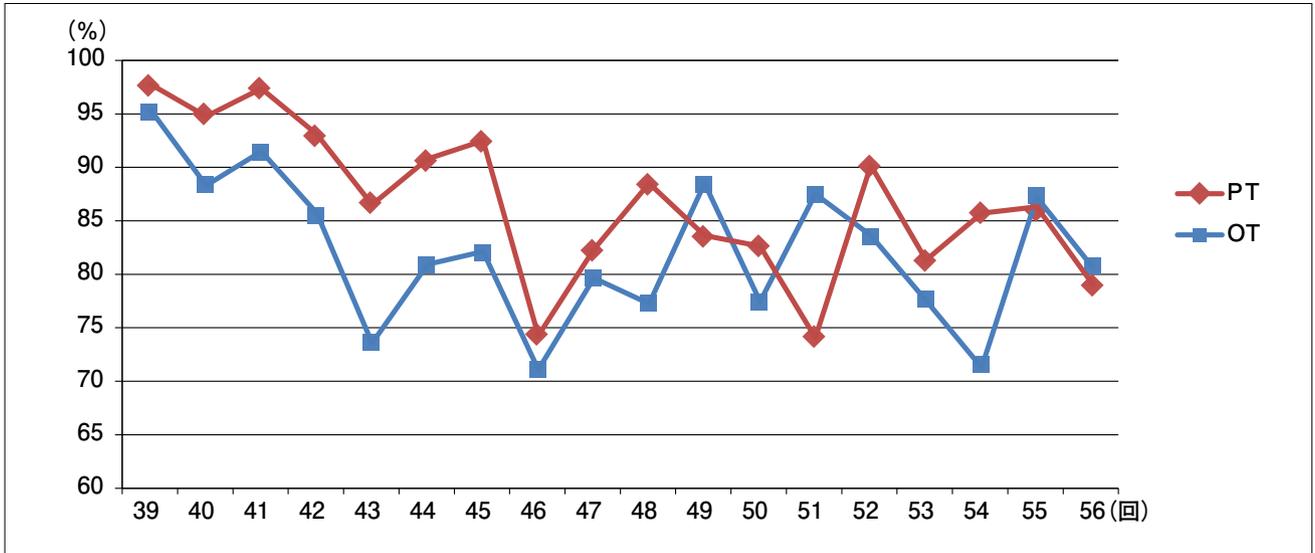


図1 作業療法士 (OT 青)・理学療法士 (PT 赤) 合格率の推移

回数	39回	40回	41回	42回	43回	44回	45回	46回	47回	48回	49回	50回	51回	52回	53回	54回	55回	56回
OT 合格	3,313	3,443	4,185	4,400	4,253	5,405	5,317	4,138	4,637	4,084	4,740	4,125	5,344	5,007	4,785	4,531	5,548	4,510
PT 合格	4,199	4,843	6,002	6,559	6,924	8,291	9,112	7,786	9,850	10,115	9,315	9,562	9,272	12,388	9,885	10,809	10,608	9,434

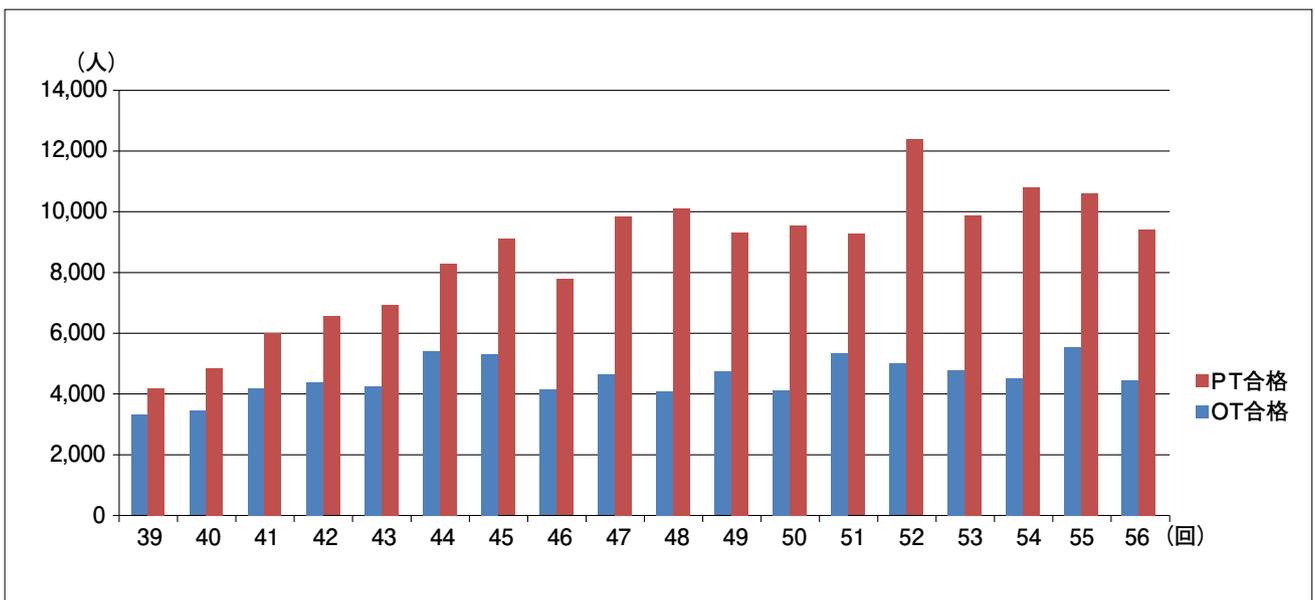


図2 作業療法士 (OT 青)・理学療法士 (PT 赤) 合格者の推移

	50回	51回	52回	53回	54回	55回	56回
全体合格率	77.5%	87.6%	83.7%	76.2%	71.3%	87.3%	81.3%
全体合格者数	4,125	5,344	5,007	4,700	4,531	5,548	4,510
新卒合格率	85.5%	94.1%	90.5%	83.9%	80.0%	94.2%	88.8%
新卒合格者数	3,981	4,711	4,800	4,435	4,108	4,515	4,345
既卒合格率	21.6%	57.7%	30.4%	30.3%	34.6%	66.3%	25.2%
既卒合格者数	144	633	207	265	423	1033	165

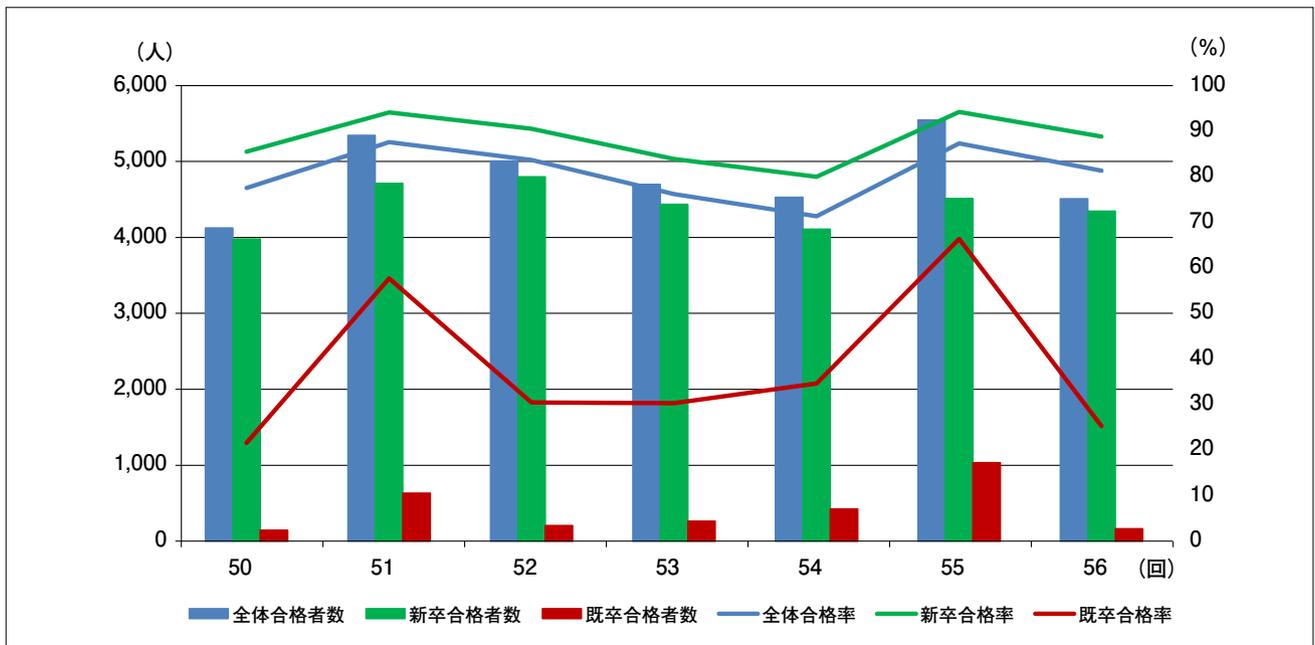


図3 作業療法士国家試験新卒・既卒別合格率・合格者数推移

(1) その他の意見で指摘した問題

午前 問題番号 (14) 指摘校数: 4

14 50歳の男性。アルコール依存症。大学を卒業後、就職したころから飲酒が始まる。転勤で一人暮らしになってから飲酒量が増加し、仕事もやめ昼夜問わずに飲み続けるようになった。その後、精神科病院を受診し入退院を繰り返す。主治医には「酒はもうやめます」と言いながらも退院後に再飲酒していた。作業療法士には「酒をやめたいのは本当だが、退院しても仕事が見つからないのでつい飲んでしまう。何とかしてほしい」と話す。

この患者の心理状態としても最も適切なのはどれか。

1. 否認
2. 共依存
3. 両価性
4. 自己中心
5. 刹那主義

解説

正答は3とされた。養成校より、消去法から両価性を選択することはできるが両価性は統合失調症の基本症状の一つなのでアルコール依存症に両価性を選択することは難しいと指摘された。

両価性の概念は歴史的に変化してきた。ブロイラーは統合失調症の自我障害の一つとして取り上げ、フロイトは神経症の感情へとその概念を拡大した。一般的にこうした変遷は専門書にしか掲載されていない。教科書として広く用いられている標準理学療法・作業療法の専門基礎分野 精神医学（第3版、p.24）にも統合失調症の基本症状の一つとしてこの用語が説明されている。そのため、この設問を不適切とは言えないものの、選択肢を選ぶ際に戸惑うため、その他の意見として取り上げた。

午前 問題番号 (24) 指摘校数: 7

24 作業分析の観察による評価について最も適切なのはどれか。

1. 観察者の主観により行う。
2. 観察者の経験に左右される。
3. 事前に認知機能評価を行う。
4. 職業関連活動は模擬動作で評価する。
5. 患者の病気に対する認識が評価できる。

解説

正答は2とされた。養成校から4について職業関連活動の評価は就労現場での実際的な評価と模擬動作での評価も行われるので適切ではないかと指摘された。また、問題文の「作業分析の観察による評価」が何を示すかが曖昧であるなどの指摘もあった。しかし、最も適切な選択肢の優先度から考えると選択肢2を解と選択できる。消去法や優先順位等から解は選べるものの、問題文と選択肢の表現が曖昧で選択に戸惑うため、その他の意見として取り上げた。

午前 問題番号 (46) 指摘校数：1

46 注意欠如・多動性障害について正しいのはどれか。

1. 女性に多い。
2. 低出生体重児の多くで発症する。
3. 感情における衝動性の高さは改善しやすい。
4. 約9割の患者は成人期早期までに寛解する。
5. 青年期以降は運動性多動の症状は目立たなくなる。

解 説

正答は5とされた。養成校からは、2が該当する可能性があるとの指摘があった。検討班で調査した結果、消去法や優先順位等から解は選べるものの、他の選択肢も該当する可能性があるため、その他の意見として取り上げた。

午前 問題番号 (53) 指摘校数：5

53 大転子に付着する筋はどれか。2つ選べ。

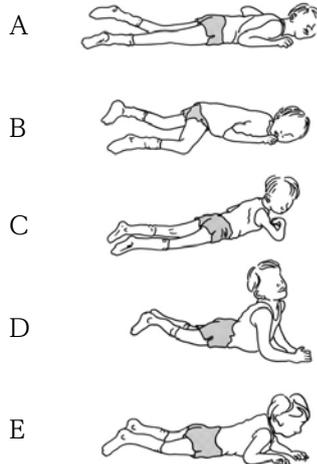
1. 腸骨筋
2. 大殿筋
3. 中殿筋
4. 梨状筋
5. 内閉鎖筋

解 説

正答は3、4、5とされた。養成校からは、3、4、5の複数の解が選択できるとの指摘があった。検討班で調査した結果、消去法や優先順位等から解は選べるものの、他の選択肢も該当する可能性があるため、その他の意見として取り上げた。

午後 問題番号 (6) 指摘校数 : 5

6 痙直型四肢麻痺を呈する脳性麻痺児の姿勢保持の発達順で正しいのはどれか。



1. A-B-C-E-D
2. A-B-E-C-D
3. B-A-C-E-D
4. B-A-E-C-D
5. B-A-E-D-C

解説

正答は4とされた。養成校からは、3が該当する可能性があるとの指摘があった。検討班では、図Cと図Eより優先順位をつけ解を導き出すことは難しいと判断したため、その他の意見として取り上げた。

午後 問題番号 (26) 指摘校数 : 7

26 検査と評価項目の組合せで正しいのはどれか。

1. GMFM 日常生活活動
2. WISC- IV ワーキングメモリー
3. S-M 社会生活能力検査 心理的発達
4. フロスティグ視知覚検査 巧緻運動
5. 遠城寺式乳幼児分析的発達検査 粗大運動

解説

正答は2とされた。選択肢の1、3、4は明らかに誤りである。選択肢5の「遠城寺式乳幼児分析的発達検査」は、検査項目の名称に「粗大運動」という用語が使用されていないが、「移動運動」という項目に粗大運動の評価を含んでおり、誤りとは言い難い。そのため、その他の意見として取り上げた。

(2) 養成校から指摘の多かった問題で、検討班として意見書で取り上げなかった問題
(指摘校数が10校以上あった問題)

午前 問題番号(19) 指摘校数:10

19 22歳の男性。職場でケアレスミスがあまりにも多いため、産業医の勧めで精神科を受診した。母親の話によると、幼少時から落ち着きがなく、小学校の担任から「人の話を聞いていない」、「順番を守れない」、「隣の子にちょっかいを出す」などと注意されたことがあり、大学でも提出物の締め切りを守れないなどといった問題から成績は悪かった。

この患者に薬物療法を行う場合、最も適切と思われる向精神薬はどれか。

1. 気分安定薬
2. 抗うつ薬
3. 抗精神病薬
4. 抗不安薬
5. 精神刺激薬

解 説

正答は5とされた。この設問は、注意欠如・多動性障害への薬物療法における第一選択薬を問う問題である。養成校より、難易度が高いとの指摘がなされた。養成校指定規則に準じたカリキュラムだとしても、各養成校によって精神医学の講義内容は少しずつ異なっていると思われる。そうした観点からも養成校からの指摘は十分に理解できる。

しかし、「注意欠如・多動症-ADHD-の診断・治療ガイドライン 第4版」でも精神刺激薬が第一選択として取り上げられていることや、精神刺激薬の過剰処方が社会問題として取り上げられていることから、この設問で問われている知識は認知度の低い知識ではない。そのため、養成校からの指摘を取り上げず、正答を5とした。

午後 問題番号(65) 指摘校数:10

65 排便機構について正しいのはどれか。

1. 骨盤神経は便意に関与する。
2. 内肛門括約筋の弛緩は随意的に起こる。
3. 排便反射は仙髄から抑制を受けている。
4. 大腸の蠕動運動は縦走筋によって生じる。
5. 外肛門括約筋は下腹神経の作用で弛緩する。

解 説

正答は1とされた。選択肢3と4も該当すると指摘があった。選択肢3については、「排便反射は仙髄からの抑制がなくなると起こるため、抑制を受けていると考えられる」と意見があったが、仙髄の排便中枢は絶えず大脳皮質からの抑制を受けており、大脳皮質からの抑制がなくなるまで排便反射は起こらないため、誤りである。選択肢4については、「蠕動運動は輪走筋と縦走筋の協調的な収縮によってもたらされる」ことから縦走筋も関与するため正解との意見があった。しかし、縦走筋の単筋によって生じるわけではないため、誤りである。したがって、正答は1とした。

3. 出題傾向について

・身体障害領域の出題傾向

例年通り出題範囲は広いが難易度は例年並みであった。新出用語は認められなかったが、認知症に関する問題が昨年までは減少傾向であったが今年は増加した。また RA・膠原病の問題についても昨年 0 問であったが今年 3 問と増加傾向がみられた。その他、地域作業療法や制度に関連する内容が 3 問、研究法・疫学に関する問題が 4 問と出題が増加したが、法規や歴史に関する問題は減少した。

・精神障害領域の出題傾向

昨年から出題傾向に大きな変化はない。設問のなかで取り扱われる疾患は、アルコール依存症、統合失調症、摂食障害、強迫性障害、うつ病、境界性パーソナリティ障害、注意欠如・多動性障害、てんかん、社交不安障害で幅広く出題された。各設問の内容において臨床思考過程を問う出題形式は少なく、基本的知識を確認する一問一答形式がほとんどであった。本年度も専門問題で、発達障害に対する薬物療法の知識を確認する出題が認められた。難易度については、迷うことなく選択肢を選ぶことができたので、全体的に取り組みやすい設問であった。

・小児発達領域の出題傾向

第 55 回に比べて小児発達領域の関係する問題数が増えた。発達障害に関する出題（児童期・青年期）と、小児領域に関わる基本的な問題が幅広く出題された。また、特別支援教育に関する問題も出題された。

基礎分野では、遠城寺式乳幼児分析的発達検査表における獲得課題、知的障害がみられうる遺伝子疾患、姿勢反射の中核についての問題が出題された。また小児発達領域に関係する、発達課題（エディプス葛藤）や認知行動療法（トークンエコノミー法）などが選択肢に含まれる問題が出題された。

専門分野では、疾患に関する問題は、脳性麻痺（姿勢反射・発達経過による姿勢の特徴：いずれも絵による）2 問、Duchenne 型筋ジストロフィー（機能障害度分類）1 問、二分脊椎（Sharrard の分類）1 問、小児切断の問題 1 問、広汎性発達障害（自閉スペクトラム症）3 問、注意欠如・多動性障害 2 問、検査名と評価項目のマッチング、特別支援教育の内容がそれぞれ 1 問ずつ出題された。特に発達障害の問題は、症例の経過を読み、発達障害であることを理解し解答させる問題が実地問題で 3 問あった。

・専門基礎（共通）問題の傾向

専門基礎の問題は今回もほぼ例年通りの出題数であった。基礎医学系の出題傾向は変化しておらず、これまで通り運動学・解剖学・生理学の分野から多く出題された。昨年増えた排尿関係は減少し、感染症や標準予防策、感度と特異度について問われた。他にも研究法、目標設定、作業分析、作業観察、運動学習、地域作業療法、ロコモティブシンドローム、障害者総合支援法、介護保険制度、など幅広い知識が問われた。

4. 出題範囲等について

出題範囲等についての意見は 42 校から回答があった。養成校からの意見を交えて検討結果を報告する。

出題基準の範囲から外れる出題は見られなかったが、感染症に関する問題の割合が増加した。近年続いている傾向だが、専門問題において基礎医学的知識を問う問題が含まれており、作業療法の専門とは何かを問い直して問題構成

を見直すことが必要だと思われる。

養成校アンケートでは、難易度に関する意見が多くを占めた。「平年並みの難易度」とする意見が12件と最も多かったが、「過去問を中心とする難易度の低い問題が多く出題された」、「選択肢に難しいものはあったが、明らかに正しいものや誤っているものがあり、例年よりも易しかった」といった「難易度が低い」とする意見が9件、「バランスの良い難易度であった」とする意見も2件あった。

出題内容については、「少し掘り下げすぎた問題や一部でしか用いない治療法についての設問がある。作業療法士として純粋に必要な設問をしっかりと出題されたい」、「もう少し基本的な問題も出題する必要がある」、「用語の用い方に誤りがあるのではないか」といった意見があった。検討班においてその他の意見で指摘した「両価性」の用語に見られるように、イメージしづらく、意味が変化していった概念を養成教育のなかでどのように伝えていくか、教科書等の見直しも含めて検討していかなければならないと思われる。

一問一答で、知識さえあれば解けるような問題が増えているが、作業療法の専門の中核をなす基本的な知識を用いて論理的に解を導き出すような、思考力や知識の運用能力も確認できる問題を作成することが望ましいと考える。

国家試験問題指針検討班 班員

向 文緒（班長）、遠藤浩之、川合康夫、草川裕也、久留宮なぎ砂、鈴木達也、中原留美子、
中川与四郎、中村泰久、山崎大輔、山田英徳、山田将之

表 1 検討班による出題範囲分類

* 第 47 回以降は専門問題の一部が専門基礎問題（共通問題）分類

専門問題		第 47 回		第 48 回		第 49 回		第 50 回		第 51 回		第 52 回		第 53 回		第 54 回		第 55 回		第 56 回	
		問題数	二択問題																		
専 1	障害別治療学（身体）	18	2	22	8	14	0	14	0	15	1	14	2	20	2	13	0	12	0	13	1
専 2	障害別治療学（精神）	22	2	16	0	21	0	26	1	24	1	26	4	22	3	23	3	11	0	17	0
専 3	OT 評価学	30	7	25	6	25	5	21	6	17	5	17	4	17	2	20	6	26	4	26	3
専 4	障害別治療学（発達）	2	1	2	2	5	0	6	0	3	0	6	0	4	0	5	0	2	0	1	0
専 5	ADL・生活環境・リハ機器	8	3	5	1	6	1	7	1	8	0	6	0	7	0	11	1	5	0	7	0
専 6	OT 概論	4	1	4	0	2	0	5	1	4	0	6	1	3	1	2	0	4	2	2	0
専 7	基礎作業学	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	2	0	3	0	3	0	1	0	1	0
専 8	切断と義肢学	3	1	4	0	2	0	4	2	2	0	2	0	2	0	3	0	2	0	2	0
専 9	人間発達	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0
専 10	障害別治療学（高齢者）	1	0	2	0	2	0	5	0	5	0	6	1	2	0	4	0	4	0	3	0
専 11	装具学	1	0	2	0	2	2	1	1	2	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	1
専 12	臨床運動学	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0
問題数		90	17	85	17	79	8	93	12	81	7	88	12	82	8	87	10	69	7	74	5

専門基礎問題（共通問題）		第 47 回		第 48 回		第 49 回		第 50 回		第 51 回		第 52 回		第 53 回		第 54 回		第 55 回		第 56 回	
		問題数	二択問題																		
共 1	解剖生理学（植物機能）	17	3	12	2	10	2	19	2	13	0	16	2	20	1	23	2	20	3	14	1
共 2	運動機能	12	3	12	4	13	1	16	3	15	0	19	3	13	3	16	4	9	3	7	2
共 3	解剖生理学（動物機能）	10	4	23	3	27	8	13	1	20	2	12	1	18	3	12	3	18	4	25	5
共 4	整形外科学	9	4	9	0	12	1	6	0	3	0	9	2	9	0	7	0	4	0	8	3
共 5	精神医学	17	1	18	3	23	1	12	0	15	1	12	2	18	3	10	1	29	2	17	1
共 6	臨床神経学	6	2	10	2	10	0	13	1	10	2	14	0	7	0	9	0	13	2	18	1
共 7	臨床心理学	5	1	5	1	3	1	7	0	6	1	5	0	4	0	9	0	5	1	4	0
共 8	内科学	9	1	12	1	7	0	6	0	13	0	12	1	16	1	7	1	10	0	10	1
共 9	病理学	8	0	6	0	6	0	4	0	6	0	5	0	4	0	4	0	8	1	7	1
共 10	リハ医学・概論・医学概論など	9	0	5	2	6	1	8	0	13	0	6	0	8	2	12	3	11	1	13	2
共 11	小児科・人間発達	4	0	3	1	4	0	3	0	5	0	2	0	1	0	4	1	4	0	3	1
問題数		106	19	115	19	121	15	107	7	119	6	112	11	118	13	113	15	131	17	126	18

* 専門問題の範囲であっても、専門基礎問題（共通問題）に分類される問題があり問題数がそれぞれ 100 問にならない（第 47 回以降の分類）

2022年度 課題研究助成制度 募集要項

2022年度は次の研究課題を助成する。研究Ⅰは制度改定に向けた協会の要望事項について、その根拠となる資料（成果）を作成するための課題を対象とする。また、現在、必要性がありながら評価（報酬）の対象となっていない先駆的な作業療法サービスを実践し、その効果（成果）を協会と連携して検証する。研究Ⅱは、作業療法の実践業務に従事する者を対象による作業療法の効果（成果）に関連する自由課題である。会員からの多数の応募を期待する。

研究Ⅰ（指定課題）

1) 課題

1. 障害者や高齢者の地域包括ケアシステム（地域移行・地域定着支援など）に関する研究
2. 認知症（若年性認知症を含む）に対する作業療法の効果に関する研究
3. 学校教育領域における作業療法の効果に関する研究
4. 福祉用具（福祉機器・自助具・補装具）やロボット支援技術、ICT、IoTを用いた作業療法の効果に関する研究
5. 精神障害に対する作業療法の効果に関する研究
6. 就労支援における作業療法の効果に関する研究
7. 生活行為向上マネジメントの効果に関する研究（特に、難病、発達障害、精神障害、認知症）
8. 終末期における作業療法の効果に関する研究
9. 自動車運転支援に対する作業療法の効果に関する研究
10. 地域高齢者の通いの場における作業療法の効果に関する研究

2) 研究方法

- ・ 実現可能性が高い、前向きな作業療法の介入研究（prospective study）が望ましい。ただし、作業療法の効果を検証する内容であればこの限りではない。
- ・ 評価法の検証やアンケート調査に限定した研究内容は本助成制度の対象とならない。
- ・ 二次審査より学術部が関与し、必要に応じて研究計画書・成果報告書の作成を支援する。

3) 研究期間および研究費

研究期間は2年間、総額100～200万円を目安とするが、理事会が必要と認めた場合はその限りではない。

4) 募集期間

2021年8月2日（月）～9月3日（金）（消印有効）

5) 審査過程

- ・ 一次審査：書類審査にて助成課題の候補者を選定する（2021年10月末まで）。
- ・ 二次審査：学術部担当者がヒアリングを行う（2021年11月中旬まで）。
- ・ 研究者はヒアリングの結果を基に研究計画書を作成・送付する（2021年11月末まで）。
- ・ 審査会が課題を審査・推薦し、理事会が助成の採否を決定する（2021年12月理事会）。
- ・ 採否の内定通知は候補者選定後に行う。最終的な結果通知は理事会の承認後に行う。

研究Ⅱ（自由課題）

1) 課題

作業療法の効果（成果）に関連し、会員（研究者）が独創的・先駆的な発想に基づき実施する研究。

2) 研究方法

介入研究が望ましい。ただし、作業療法の効果を検証する内容であればこの限りではない。

3) 研究期間および研究費

1年間、30万円まで

4) 募集期間

2021年8月2日（月）～9月3日（金）（消印有効）

5) 審査過程

- ・ 書類審査にて助成課題の候補者を選定する（2021年10月末まで）。

審査基準は協会ホームページ（「課題研究助成制度」ページ）を参照する。

- ・研究Ⅱでは二次審査は行わない。
- ・審査会が課題を審査・推薦し、理事会が助成の採否を決定する（2021年12月理事会）。
- ・採否の内定通知は候補者選定後に行う。最終的な結果通知は理事会の承認後に行う。

■応募資格

研究Ⅰ：研究代表者は正会員歴が3年以上あり、作業療法に関する学会発表（筆頭）が2編以上ある者とする。

研究Ⅱ：研究代表者は作業療法の実践業務に従事する者^{注)}で、正会員歴が3年以上あり、作業療法に関する学会発表（筆頭）が2編以上ある者とする。

注) 養成施設の教員や研究所の職員等、作業療法の実践業務を主としない者は含まれない

■応募方法

応募者は次の応募書類を協会ホームページ（「課題研究助成制度」ページ）より入手し、必要事項を記入のうえ、募集期間中に協会事務局まで簡易書留にて郵送する。また同時に、応募書類のファイルを下記アドレスに送信する。記載方法については、「書類作成の手引き」を参照する。

【応募書類】

1) 2022年度日本作業療法士協会課題研究助成計画書（様式1）

研究課題名、研究期間、研究組織、研究費申請額、研究目的、研究方法について別紙「課題研究計画作成上の留意事項」および「課題研究助成の対象科目と会計処理」に基づき記入する。

2) 倫理審査申請書

研究にかかわる倫理的配慮とその方法について「倫理審査申請書作成上の留意事項」に基づき記入する。

3) 同意書・同意説明文書

研究に参加する対象者または代諾者より同意を得る必要がある場合は、資料を参考に同意書と同意説明文書を作成し、倫理審査申請書に添付する。

※ 研究実施承認書

研究助成が決定された後に、研究責任者（または研究実施者、共同研究者）は、対象施設（機関）より臨床研究を実施する許可を得て「研究実施承認書」を提出する。なお、施設の実施する倫理審査会の承認を受ける場合は、判定結果（コピー）を提出する（この場合「研究実施承認書」の提出は必要ない）。

委託契約書を交わして多施設共同研究を実施する場合は、委託契約書を研究実施承認書に代えることができる。なお、委託契約書および業務委託仕様書は研究責任者が作成する（書式サンプルは協会ホームページ（「課題研究助成制度」ページ）を参照）。

■成果報告

研究Ⅰ・Ⅱともに研究者は研究が終了となる年度の末までに次の書類を提出する。

- ① 課題研究成果報告書（様式2；研究の目的、方法、結果・成果の概要を記す）
- ② 研究費会計報告書（様式3；実際の支出額を報告し、領収証等を添付する）

課題研究成果報告書は協会ホームページ、機関誌ほかで公開される。なお、研究者には研究成果を関連学会で報告し、学術論文として公開することが期待される。

■著作権とデータの二次的使用

課題研究成果報告書・掲載論文等の著作権（著作人格権、著作財産権）は報告者（著者）に帰属する。報告者は、一般社団法人日本作業療法士協会に、協会が公益事業に役立てるために行うデータの二次的使用と、成果報告書・掲載論文の転載許諾の権利を譲渡するものとする。

■書類送付先

〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル7階

一般社団法人日本作業療法士協会事務局「課題研究助成制度」係

TEL：03-5826-7871 FAX：03-5826-7872 ファイル送付先アドレス：kadaikenkyu@jaot.or.jp



第 55 回日本作業療法学会 プログラム概要

連載
第 3 回
(全 4 回)

作業療法の分化と融合

- 輝く未来に実践知のバトンをつなぎ・たくす -

“New Horizons and Specialization in Occupational Therapy :
Passing the knowledge and technique baton to a creative generation”

会期および開催方法

2021年9月10日(金)、11日(土):ライブ配信(基調講演等の特別プログラム)および
オンデマンド配信(ライブ配信以外のプログラム)

2021年9月13日(月)~10月13日(水):オンデマンド配信(全プログラム)

学会ホームページ <https://www.c-linkage.co.jp/ot55/>

学術部 学会運営委員会 演題採択部会

一般演題(口述、ポスター)について

【はじめに】

第 55 回日本作業療法学会(以下、第 55 回学会)の発表演題についてお知らせする。

第 55 回学会では 874 の演題登録があり、851 演題を採択した。採択率は 97.4% となり、高い採択率であった。また、口述演題とポスター演題の比率は約 1:1 であり、昨年度よりも口述演題の割合が多くなった。

審査基準は、3 名の査読者が各項目を 4 点満点で採点し、その採点した平均スコアが 2 点に満たない査読者が 2 名以上いた演題は原則として不採択とした。不採択演題の特徴としては、例年と同様、学術誌やホームページに記載されている「演題審査基準」に準じていない(倫理手続きを含む)、学術的な内容ではなく施設や活動の紹介のみ(量的・質的データの分析がない)の演題が多くみられた。

また、第 55 回学会においても、採択演題の審査得点上位者のうち、学会運営委員会による 1 次審査で抄録内容が特に優れている 4 演題をスペシャルセッションとした。

【発表演題内容について】

発表演題数は表に示すとおりである。

スペシャルセッションは第 50 回日本作業療法学会において会員相互の活発な学術的交流の場となることを目指して企画され、今回で 6 回目となる。採択された演題は、作業療法の方法が具体的かつ結果が明確であり、作業療法の学術的發展に特に貢献すると思われる内容である。

一般演題の特徴としては、「脳血管疾患等」、「地域」がそれぞれ 100 題を超えており、特に、「地域」は、ここ数年で「脳血管疾患等」に次ぐ演題数が集まっている。さらに、第 55 回学会で特徴的といえるのは、COVID-19 についての作業療法経験の報告が増えていることである。

以下に、演題数の多いセッションの特徴について簡単に紹介する。「脳血管疾患等」では、従来の作業療法の効果検証からロボットや 3D プリンタを用いた最先端の取り組みについての演題まで多岐にわたっている。

「地域」では、COVID-19 が地域の高齢者に及ぼす影響についての報告が多くみられる。

「精神障害」では、ランダム化比較試験などのエ

表 発表演題数

セッション分類	スペシャル	口述 (日本語)	口述 (英語)	ポスター (日本語)	ポスター (英語)	合計
脳血管疾患等		84	1	77		162
心大血管疾患		6		7		13
呼吸器疾患		6		2		8
運動器疾患		26	1	34		61
神経難病		11		5		16
がん	1	20		17	1	39
内科疾患		3		8		11
精神障害		35		46		81
発達障害	1	18		37		56
高齢期		24		31	1	56
認知障害 (高次脳機能障害を含む)	1	36		31		68
援助機器		10		13	2	25
MTDLP		8		8		16
地域	1	52		54		107
理論		4		7		11
基礎研究		25	1	28	1	55
管理運営		12		9		21
教育		12		33		45
合計	4	392	3	447	5	851

ビデンスの高い研究手法を用いた演題が増えてきている。

「認知障害（高次脳機能障害を含む）」では、認知症および高次脳機能障害患者の ADL、IADL 向上についての報告が多くみられる。

「運動器疾患」では、機能や ADL の改善の検証に留まらず、満足度や QOL などの対象者立脚型の評価についての報告が散見される。

【おわりに】

第 55 回学会も昨年に引き続き Web での開催となるが、昨年開催後のアンケートなどからも、現地開催よりも優れた点が挙げられている。

1 点目は、時間を選ばずに参加できる点である。特に子育て世代からは、自宅で育児をしながらの視聴が可能であったため好評であった。もちろん、勤務上の都合で現地開催の会場へ行くことができない会員においても、Web 開催であれば参加が可能である。2 点目は、繰り返し視聴できる点である。特に、

口述発表では、音声付きスライドのため、聞き逃したとしても、再度、視聴することができる。ポスター発表に関しても、パソコン上でポスターを拡大することができるため読みやすいという意見があった。3 点目は、多くのプログラムに参加できる点である。現地開催の場合には、日程や会場の都合上、複数の演題セッションが並行して進むことになるため、参加したいセッションが重なるといずれかを選ばなくてはならない。その他にも、旅費がかからない点、希望した形式での発表（口述あるいはポスター）が可能になる点などもある。演題への質疑応答についても、昨年の学会では Web 上での意見交換が活発に実施された。

その経験を活かし第 55 回学会においても、さらに、使用しやすい仕様になるように準備中である。Web 開催の特徴を生かしつつ今年はライブ配信も加えて、会員の皆さんが得るものが多くなるよう、鋭意準備中である。適宜、情報更新を確認し、積極的に参加していただきたい。

白書はこのように使われている！

白書委員会

これまでの連載は、①作業療法白書のこれまでとこれから、②一人一人の作業療法士が『作業療法白書』をつくる、③今までの『作業療法白書』を振り返る～その使い方～、④今回の白書は違う！～『白書』企画の意図～、⑤調査データの信頼性を高めるために、⑥白書調査データの活用～都道府県土会の場合～、といったテーマでお届けしてきた。今回は、今までの『作業療法白書』をどのような関係諸団体等に配布し、どのように活用してきたのかについて紹介する。

● 作業療法の「全容」と「今」の説明に

『作業療法白書』は、5年毎に発行されるつど、その時点での作業療法および作業療法士の実態と動向、並びに日本作業療法士協会の事業の概要をまとめたかたちで示している。これは私たち当事者にとっても、作業療法士という専門職の現況やその臨床の傾向について、また日本作業療法士協会の活動について漠然と思いをしていたこと、部分的にしか分かっていなかったことを改めて全体的に客観的に把握し直すよい機会となる。ましてや作業療法（士）を知らない方、一面的にしか知らない方、ひと昔前の作業療法しか知らない方、ひいては作業療法を誤解しているかもしれない方に、日本の作業療法の「全容」と「今」を説明し、また理解していただくのに、これほどまとまった資料はほかにないだろう。

● 作業療法についての認識を更新していただく

これまで『作業療法白書』は、厚生労働省などの関係省庁、日本リハビリテーション医学会や日本精神科病院協会、日本理学療法士協会をはじめとする関連諸団体、本会の賛助会員と都道府県作業療法士会等に贈呈されてきた。これらの団体等は作業療法（士）および日本作業療法士協会のことをある程度もしくはかなりの程度よくご存じなので、定期的に情報を提供し、認識を更新していただくという重要な意味合いがある。

● 渉外活動のお供に

これに加えて本会では、さまざまな渉外活動の際、

特に初めて交渉に当たる団体や有識者、行政、会社などに対しては、必要に応じて『作業療法白書』を持参し、作業療法士の実態や動向、本会の活動を説明する資料として活用している。

都道府県作業療法士会には希望に応じて必要部数を贈呈しており、士会でも各自治体など関係する行政や関連他団体などへの渉外活動、また作業療法の啓発や広報活動等の際に利活用していただいていると聞く。

● 他の資料と組み合わせる

本会では、『作業療法白書』に他のさまざまな資料——たとえば当該年度の会員統計資料や各部署が独自に行った各種調査等のデータ——を加味したり組み合わせたりして対外的なプレゼン資料を作成することも多い。一例で言えば、医療専門職の人材育成を考える会（2018年）や第1回循環器病対策推進協議会（2020年）に提出した資料は『作業療法白書』のデータや内容が使用されている。

● 身近な普及啓発活動の一助として

会員の皆様には、事前にお申込いただければ1人1冊贈呈することができる。2冊目以降はご購入いただくことになるが、全ページのPDF版を協会ホームページに掲載し、誰でも無料で閲覧しダウンロードできるようにしているので、必要な箇所だけ印刷して利用することも可能だ。作業療法（士）のことを詳しく知りたいと思っている他職種や関係者にこのPDF版のURLを伝えるだけでも作業療法の普及啓発の一助となる。もっとも、『作業療法白書』は細かい記述や統計資料が多く、面白い読み物というわけではないので、これをただ渡すだけでは、読んでもらえなかったり、肝心なことが伝わらなかったりするかもしれない。説得力のある根拠資料として『作業療法白書』が威力を発揮するためには、作業療法の具体的な実践や実績、丁寧な説明を行うこととセットにして、「それについてはここをご覧ください」と示すと効果的だ。それは相手が個人であっても、団体や行政等であっても同様である。

作業療法普及・啓発のための協会と士会との協業

「協会員＝士会員」実現のための検討委員会

本誌第110号（2021年5月発行）から始まった連載の流れを受けて、本稿ではまず、「協会員＝士会員」の背景となっている、作業療法の普及・啓発のための日本作業療法士協会（以下、協会）と都道府県作業療法士会（以下、士会）との協業という課題を取り上げ、次いで「協会員＝士会員」実現のための検討委員会の作業の進捗状況について報告する。

●協会と士会の役割

連載第1回でも触れたが、協会と士会それぞれの定款をいちど見比べてみてほしい。協会の定款第3条では、「作業療法士の学術技能の研鑽及び人格の陶冶」と「作業療法の普及発展」を通して「国民の健康と福祉の向上に資すること」が目的に掲げられている。士会も、具体的な文言はさまざまだが、「知識・技術研鑽」、「資質の向上」、「都道府県民の健康、医療、福祉などへの貢献」などをキーワードに、基本的には協会と同じ目的が定款で謳われている。

他方、誰のためにこの法人があるのか、協会がそのターゲットとしているのは「国民」だが、士会は「都道府県民」である。また、渉外活動の相手も、協会は関連省庁や関連職能団体等だが、士会は都道府県庁や各市町村自治体、都道府県の関連職能団体などである。都道府県ごとに県民性や産業、地域事情などもさまざまなので、身近な地域の特殊性を踏まえて作業療法を普及・啓発していくのが士会の役割と言えよう。地域包括ケアシステムが進行するなかでは市区町村単位での活動がよりクローズアップされ、個々の作業療法士の活動なくして士会の活動はなく、士会の活動なくして協会も活動を推進することができない。協会は作業療法の普及・発展の道しるべとなりながら、士会や個々の作業療法士をサポートしていかなければならない。

こうした作業療法士全体の課題に立ち向かうためにも「協会員＝士会員」を実現し、一人ひとりの作業療法士の声がつながって士会の声となり、士会の声がつながって協会の声となるようにしたい。それが力となって作業療法士を諸制度へ位置付け、作業療法の普及と発展を図ることができ、都道府県民ひいては国民の健康と福祉の向上に寄与できるように

なる。

●「協会員＝士会員」実現に向けての準備状況

協会では目下、永年会員制度創設の検討を行っている。そしてこの永年会員制度を含め、「協会員＝士会員」実現のための定款および諸規程の改定案を作成していく予定であり、早ければ2022年度定時社員総会に定款変更の議案を提出できるよう準備を進めている。これらの動きとともに、協会は士会での定款変更に関しても種々の協力をしていく用意がある。

また、定款変更先立ち、「協会員＝士会員」の状態に少しでも近づけるために今からできることとして、協会員名簿と士会員名簿の突合を行い、協会もしくは士会の一方にしか所属していない会員を特定して、両方に入会していただくよう案内していくことを考えている。この作業を行うために、協会と士会が相互に会員データを取り扱えるよう「会員の個人情報取り扱いに関する覚書（案）」を改訂し、協会と士会間で取り交わしを進めていく。それとともに、士会システムを利用規約に沿って活用し、入会状況や会費納入状況等の管理を行っていただくことも推奨し、また支援していきたいと考えている。

会員の皆様には上述のような現況をご理解いただき、「協会員＝士会員」の実現に向けてご協力をお願いしたい。周囲に協会か士会の一方にしか入会していない会員や、まだどちらにも入会していない作業療法士の方がいたら是非声をかけ、入会を促していただければ幸いである。また、会員や士会の皆様に資する会員管理システムの改修に関しては、数多くの課題を一つずつ整理し解決していくので、しばらくお待ちいただきたい。



MTDLP 実施・活用・推進のための 情報ターミナル

次の扉を開く！ 啓発・普及から定着・展開へ

第 32 回

MTDLP 室

MTDLP に関する意見公募の結果報告

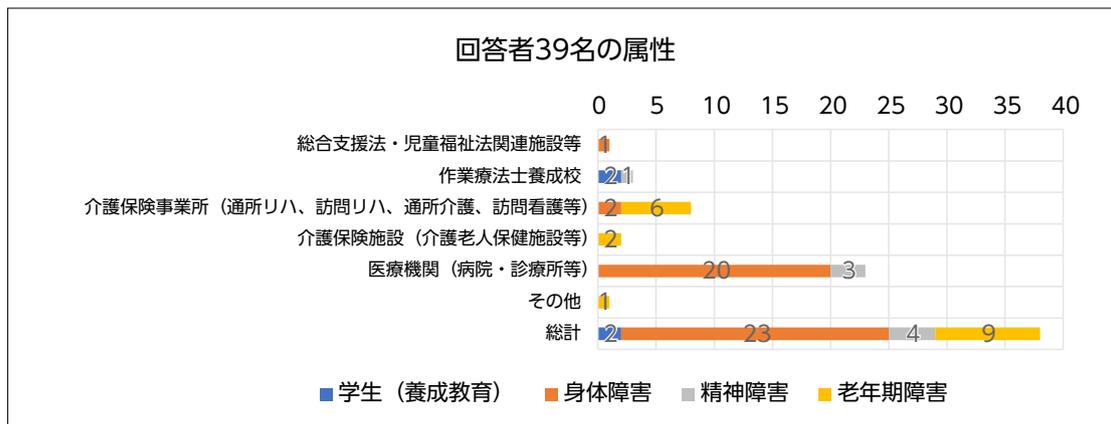
1 MTDLP 室の始動

MTDLP 士会連携支援室は 2021 年 4 月から「MTDLP 室」に名称を改め、MTDLP に関連した多岐にわたる検討と実務を担う課題指向型の機能をもち合わせた総合的な部署となった。課題を整理し解決に向けた議論を行っていくにあたって、本誌第 108 号（2021 年 3 月 15 日発行）で案内したとおり、会員の皆さんから「生活行為向上マネジメント」に係る意見を募集したので、その結果を報告する。

2 結果概要

募集期間：2021 年 3 月 11 日～ 2021 年 4 月 8 日

回答者：39 件



3 意見募集項目と意見数

- ① MTDLP の職能団体としての位置付け (21 件)
- ② MTDLP の各シート (20 件)
- ③ MTDLP のパンフレット (7 件)
- ④ 都道府県作業療法士会との MTDLP 推進に関する情報共有等 (6 件)
- ⑤ その他 (18 件)

4 主な意見

いただいた意見を要約、統合したものを以下に示す。

生活行為向上マネジメントの職能団体としての位置付け
<ul style="list-style-type: none"> 作業療法らしい思考を他職種や対象者等に示すことができる手段。作業療法がひとの生活に効果があることを広く具体的に示すことで、職域の拡大や作業療法ニーズの拡大が期待できる。 生涯教育制度の（MTDLP）事例検討会の際に、ファシリテーターや地区の理事クラスの参加者に対して「MTDLP を使用しているか」という問いかけをしたが、「日常的に使用している」との回答はほぼ皆無であった。「使いづらい」「使うことで業務に影響する」という消極的な意見も出ていた。
MTDLP の各シート
<ul style="list-style-type: none"> 興味関心、希望の掘り起こし、客観的なニーズの把握、障害の構造化、予後予測、実践、再評価につながるシートの内容は本質的だと思う。 臨床の場において、全ての領域を対象にシートを使用することは困難である。しかし、内容を理解して研鑽していくことは必要だと考える。
MTDLP のパンフレット
<ul style="list-style-type: none"> 各領域の実践例や MTDLP を用いた作業療法を受けた当事者からのコメントがあると良いと思う。 普段仕事をしていて、MTDLP のパンフレットを見かける機会がない。
都道府県作業療法士会との MTDLP 推進に関する情報共有等
<ul style="list-style-type: none"> 臨床現場で MTDLP のシートを使用しているのを見たことがありません。都道府県ごとの臨床での MTDLP 活用状況はどうなっているか。 各都道府県の地域包括ケア、認知症支援推進委員との MTDLP の活用に関連する連携等の内容を知りたい。
その他
<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習で全国的に MTDLP を用いるのであれば、協会が養成校向けに統一した指導方法や内容を明確に示してもらいたい。 MTDLP における「マネジメント」の概念は臨床における対象者のみならず、臨床実習や卒後の新人教育においても同様の視点をもって活用することができることが認識されにくいのではないか。 基礎研修や実践研修は全国共通のスライドを用いて行われているため、講義部分はオンラインで有料聴講できるようにしたら受講しやすい。

いただいた意見については、今後、MTDLP 室にて課題検討の際に参考とする。

MTDLP 関連情報は協会ホームページからいつでも見られます

QR コードからも直接、掲載ページに移動できます➡

◀ MTDLP 研修の履修促進に関する相談・問合せ ▶ [専用メールアドレス：mtdlp-master@jaot.or.jp](mailto:mtdlp-master@jaot.or.jp)

MTDLP のページはこちら ➡ [協会ホームページ「会員向け情報」](#) > 生活行為向上マネジメント





障害のある人のスポーツへの多様な参加を支援するために

障害のある人のスポーツ参加支援推進委員会

第13回 東京パラリンピック競技大会への参加に向けた期待と準備

2021年8月24日から9月5日に開催予定の東京パラリンピック競技大会（以後、東京パラリンピック）は、6月現在、コロナ禍で未だ開催が不透明な状況である。しかし、東京大会への出場を目標に長年練習を重ねてきた選手を間近で支えてきた会員がいる。今号と次号では東京パラリンピックへ同行予定の2名の会員に、競技に関わることとなった経緯、東京パラリンピックへの参加に向けた期待と準備状況などについてご報告いただく。

東京パラリンピック パラローイング競技への参加に際して

医療法人仁寿会総和中央病院 三木 孝太

1. 障害者スポーツに関わることとなった経緯

現在勤務している医療法人仁寿会総和中央病院には、パラローイング（障害者ボート）競技リオデジャネイロパラリンピック代表選手が在籍している。その縁もあって、筆者は2016年に職場を通じた紹介により公益社団法人日本ボート協会へ入会し、トレーナーとして練習・合宿・大会へ同行することとなった。現在は、作業療法士と日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツトレーナーの資格を活かし、パラローイングナショナルチームトレーナーとして活動中である。

2. 東京パラリンピックでの立場・役割

2021年5月、海の森水上競技場を会場にアジア・オセアニア大陸予選大会が開催され、最も障害の重い1人乗り（PR1）クラスで日本人選手が東京パラリンピック出場権を獲得した。PR1は、体幹が効かないため胸と足をベルトで固定し腕の力のみで直線2000mの速さを競う、パラリンピック競技のな

かでも最も過酷な種目であるといえる。

東京パラリンピックではトレーナーとして同行し、主に心身のケア、競技用具調整補助、トレーニング、応急処置等を行う。そのほかにも、宿泊先の環境調整、褥瘡確認、生活介助、移乗介助など、作業療法士の専門性を活かし万全の状態で挑めるようサポートしていく。

3. 東京パラリンピック参加に向けての準備

COVID-19の流行に伴い東京パラリンピックの延期が決定し、当初予定されていた予選大会は白紙となった。先の見えない状況のなかでモチベーションが保てず、2名の代表選手が引退した。緊急事態宣言下ではリモート型トレーニングに変更し、緊急事態宣言明けには感染予防対策を徹底し合宿を再開したが、初めての対応に難渋している。

コロナ禍での開催になると、選手村に入村してから隔離生活となる。慣れない環境のなかで感染対策に追われ、選手は世論からの批判があるなかで大会



写真1 アジア・オセアニア大陸予選大会で優勝、
パラリンピック出場権を獲得



写真2 選手へコンディショニングを実施

に出場するため、精神的に不安定な状態に陥ることが予測される。実際に選手から「気を遣うことばかりで集中できない」「批判のあるなかで出場して良いのか」という声が聞かれるため、心理士と連携をとりながら早期からメンタルコンディショニングを行っている。

4. 自国開催のパラリンピックへの期待

リオデジャネイロパラリンピックを現地で観戦した際、ブラジルチームの入場時には会場が揺れるほどの歓声が沸き起こり、見る人たちに感動を与えていた。これは開催国に与えられた特権であり、全ての国民が体感する権利をもつ。東京パラリンピックでは、より多くの人々に感動を味わっていただきたいと思う一方、COVID-19の収束を待たず開催すべきか、葛藤に苛まれている。

健康あつてのスポーツであり、歓迎されてこそ意味のある大会であるため、中止という選択肢も一理ある。しかし、東京パラリンピックを目標に人生をかけてきた選手を間近で見ていると、どのようなか

たちになったとしても開催してほしいとも思う。仮に予定通り開催されるのであれば、コロナ対策を徹底したうえで盛り上げていきたい。

5. 最後に

障害者、健常者ともに、スポーツの目的は、娯楽、仕事、競技、健康、教育、社会貢献、コミュニティと多岐にわたる。近年eスポーツの参入もあり、スポーツが生活に欠かせないものとなっている人も多いだろう。

障害者スポーツでは、障害特性を理解している医療従事者のトレーナーが必要とされている。スポーツに関わることに苦手意識をもっている作業療法士は多いが、障害者スポーツでは、障害に応じた競技用具の作製、コンディショニングによるADLの介入、他スタッフへの介助方法の周知、心理士や栄養士等との多職種連携、遠征宿泊先の環境調整等といった専門性を求められる。これらの知識と専門性をもち合わせている作業療法士こそ、障害者スポーツに参入すべきではないだろうか。



スウェーデンの高齢者に対する作業療法

— 第12回国際企画プログラムのご案内 —



第55回日本作業療法学会は、COVID-19感染対策のためオンラインでの開催となる。国際部では、2008年より毎年、会員の国際性の発展を目的として海外から講師を招聘し、「国際シンポジウム」を主催してきたが、今年度より実施形態の多様性を目指し、「国際企画プログラム」と名称変更した。

今年は、アンケートで毎年会員からのリクエストの多い北欧スウェーデンより、Ingeborg Nilsson 教授を招聘し、『スウェーデンの作業療法：高齢者の尊厳ある生活に向けて』と題してご講演いただく。Nilsson 教授は長年、高齢者対象の臨床に携われ、近年は高齢者の意味ある活動と健康、そして幸福との関係に焦点を当てた研究を行っている。尊厳をもって暮らすとはどういうことなのか、そのための作業療法士の役割は何か、福祉先進国といわれるスウェーデンの現状は、一層の高齢化が進む日本のこれからに大きなヒントを与えてくれるであろう。



講師：Prof. Ingeborg Nilsson
ウメオ大学 医学部
地域医療とリハビリテーション
学科 教授

座長として群馬パース大学の村田和香氏にご登壇いただく。村田氏は老年期作業療法が専門で、個々人の大切な「作業」に焦点を当て、健康な生活を獲得するための作業療法とその効果を研究されている。「意味ある作業」「健康」という共通した理念をもち、作業療法の発展に力を注いでおられる日瑞のお二人の間でどのような対話が生まれるか、当日までの楽しみとしたい。

講演には日英の同時通訳がつき、パソコンで日本語／英語を選択して視聴可能であるため、気軽にご視聴いただきたい。9月10日（金）よりオンデマンド配信の予定である。



スウェーデンの首都ストックホルムの街並み

アジア作業療法協会交流会 (Asian Occupational Therapy Associations Exchange Meeting) 開催案内

COVID-19 蔓延状況での作業療法～臨床、教育、メンタルヘルスを考える

本会では、第三次作業療法5ヵ年戦略に東アジア諸国の作業療法士協会との提携交流の推進を掲げ、アジア諸国の作業療法士協会が集い、定期的に情報交換を行っている。アジア作業療法協会交流会は、2014年から2017年に開催された「東アジア諸国との交流会」を前身とし、2018年から2023年まで隔年で日本作業療法学会の前日に開催することとしている。2021年は第2回目の開催となるが、COVID-19の世界的蔓延状況によりオンライン（Zoom）開催とする。COVID-19の世界的蔓延は一年を超え、アジアの6地域（香港、韓国、フィリピン、シンガポール、台湾、日本）の作業療法にもさまざまな影響が出ている。交流会当日は現在の状況と臨床現場、教育、メンタルヘルスなどへの取り組みについて、6地域の作業療法士がプレゼンテーションを行う。会員の皆様には奮ってご参加いただきたい。

日 時 2021年9月9日（木）13:00～15:30

参加方法 オンライン参加（Zoom 使用） ※同時通訳付き

参加費 無料

※定員は30名程度を予定しているが、各地域へ割り当てる参加者数と申し込み状況により増減する可能性がある。先着順に受付し、定員に達した場合は締め切る。

申し込み URL と QR コード <https://forms.gle/ViJT4bG2f5NXhZXs9>



交流会テーマ（予定）

- 1) COVID-19 蔓延状況における各国の臨床現場の取り組み
- 2) COVID-19 蔓延状況における各国の教育現場の取り組み
- 3) COVID-19 蔓延状況における作業療法メンタルヘルス・プログラム

参加地域（予定）

香港、韓国、フィリピン、シンガポール、台湾、日本

スケジュール（予定）

- | | |
|---------------|------------------------------------|
| 13:00 - 13:10 | 開会の挨拶 |
| 13:10 - 14:10 | プレゼンテーション 香港、シンガポール、フィリピン（各地域 20分） |
| 14:10 - 14:20 | 休憩（10分） |
| 14:20 - 15:20 | プレゼンテーション 台湾、韓国、日本（各地域 20分） |
| 15:20 - 15:30 | 閉会の挨拶 |

お問い合わせ otxkokusai@gmail.com

～ 2021 年度海外研修助成制度のご案内～

本誌5月号・6月号でご案内した2021年度海外研修助成制度の申請期間は8月1日～9月20日です。申請を希望する方は申請書類を本会ホームページ（トップページ>会員向け情報>国際関連）より入手してください。



「講読」とは「書物を読んで、その意味・内容などを解き明かすこと」とあります。作業療法士の実践を知り、自分なりの総合事業のあり方を考える道具としてご活用ください。

地域支援はじめの一步 ～地域の一員となる～

株式会社 WAN STYLE

知花 朋弥

はじめに

昨今、高齢化社会が問題となっており、筆者が在住する沖縄市では2020年現在、高齢化率20.5%であるが2040年には26.9%まで上昇することが予測されている（第7次沖縄市高齢者がんじゅう計画より）。こうした高齢化が進むなか、住み慣れた地域で高齢者一人ひとりが自分らしく活躍できる場を構築することが重要と考え、総合事業を含めた介護・福祉を支援していくことを決意し、2017年に「WAN STYLE」を立ち上げた。WAN STYLEの「WAN（ワン）」は沖縄の方言で「自分」という意味があり、利用者や家族、職員、そして地域住民が自分らしく日々過ごせるようにこの名前に決めた。

これまでの取り組み

1. 憩いの場・交流の場

デイサービスのサービス提供時間後、事業所を「サロン（地域住民の憩いの場・交流の場）」として開放し、地域高齢者の運動習慣をサポートしている。また、小学生が放課後に宿題をする場ともなり、多世代が集う「交流の場」となっている。

2. 地域の課題を知る

自治会や地域住民とのつながりを大切にし、地域の清掃活動や体操教室での運動指導などへ積極的に参加し、地域課題を知る機会としている。また、2020年度より沖縄市生活支援体制整備事業の委員として地域の介護・福祉分野の仕組み作りに携わっ

ている。

3. 地域住民の声を聴く

地域の介護・福祉をテーマとしたラジオ番組のパーソナリティーを務め、筆者の取り組みを発信するだけでなく、地域が求めていることが聴ける大切な機会となっている。

4. 地域間の連携

作業療法士や介護福祉士など福祉の専門家が中心となり、商店街と連携して地域の福祉関係者が語り合うイベント「Fukushi Bar」を開催し、地域の顔の見える連携のきっかけ作りを担っている。

総合事業で「やりたいこと」を支援する

さまざまな活動を通じて地域とかがわるなかで地域課題に気づき、それを利用者（事業対象者）の作業（活動）とマッチングすることができたので以下に報告する。

取り組み①

COVID-19感染の拡大に伴い各地でマスク不足が懸念された。沖縄市も例外ではなく、特に子ども用マスクが不足し、市の事業として「市マスクプロジェクト」が発足された。WAN STYLEでは、以前にミシン縫製店を営んでいた事業対象者Aさんと協力してプロジェクトに参加することにした。Aさんは「ただ作品（マスク）を作るだけでなく、人のために役に立ちたい」という思いから、長年愛用している自慢の工業用ミシン（作品製作のために事



写真① 愛用の工業用ミシンでマスクを製作

業所へ持ち込んでいる) を使用して作業に取り組んだ。ミシン作業という趣味活動を通じて社会へ貢献できることに喜びを感じ、利用日には黙々と作業を進めた。製作したマスクは A さんが直接プロジェクト管理者(沖縄市長)へ届けることができた。

取り組み②

事業所近隣の小学校の案内板が台風被害で破損してしまい、字が読めない状態となっていた。小学校は大通りから外れて細い道へ入るため、「案内板がないと初めて来校される方は道に迷ってしまうのではないかと考え、小学校 PTA を通じて校長先生へ相談し案内板作りを計画した。元大工の事業対象者 B さんは廃材を再利用して枠組みを作り、芸術アートを趣味とする利用者と協力して「〇〇小学校入口」とポップな模様をつけて表現した。それぞれが得意分野を役割としたことで積極性が生まれ、自ら「やりたい」という意欲を引き出すことができた。完成後、案内板製作に携わった利用者で直接校長先生へ贈呈し、一緒に設置まで行った。また、新聞記者からの取材にも利用者が応じ、製作中のエピソードなどが語られた。

この2つの取り組みでは利用者自身でマスクの贈呈や案内板の設置ができたことが重要であり、作業(活動)における達成感だけではなく、「社会に求められる存在」であることを確認する機会を作ることができた。



写真② 製作した案内板を国道沿いに設置

今後の展望

作業療法は対象者の得意とする能力や強みをアセスメントして、作業を通じて対象者の人生を豊かにする一手段である。作業療法士が施設という既存の枠だけにとらわれず、施設外でも視野を広げ、専門分野以外のことにも参加・チャレンジし、多方面にわたり経験を積むことでアプローチの幅が広がり、対象者一人ひとりに沿った作業療法の実施に繋がるのではないかと考える。

今後、各地域で高齢化が進むなか、高齢者とのように向き合うかが重要であり、高齢者を「支える」、「ケアする」という観点ではなく、「共生する」という思考が大切であると考え。これまでの常識にとらわれず、作業療法士として地域の一員として、これからもさまざまなことに取り組んでいきたいと考えている。

地域包括ケアシステム推進委員会

佐藤孝臣 理事より一言

今回の報告はさまざまな社会課題と高齢者本人のスキルをマッチングして課題解決をした取り組みである。それには対象者の能力とやりたいこと、そして地域で何が求められているかのアセスメント能力が必要であるが、作業療法士の得意とするところだ。しかし地域に根ざした基盤がなければ難しい側面もある。多くの作業療法士に地域に出てもらい、その技を磨いてほしい。

芸と教養を兼ね備えた女性を目指して

K

【憧れから始まる】

初舞台は4歳。綺麗な着付けや化粧をしてもらえることが嬉しかった。「踊らせていただきます」と丁寧に挨拶をする日本舞踊の世界。緊張感のある人の中にいると特別な気分がした。教わった通りに身体を動かすと、大人たちは手を叩いて喜んだ。唄の意味は分からなかったが、期待に応えようと踊っていた。この頃、地元のお祭りで見た上臈道中で豪華絢爛な衣装を纏った太夫が、ゆっくりと高下駄で歩く姿に見惚れ「綺麗！いつか私も太夫になりたい」と強い憧れを抱いた。思春期には、日本舞踊から離れた時期もあったが、初稽古から40年近く経った今も続けている。「良い趣味をおもちですね」とよく言われるが、流儀の名前を許されてからは、一般的な「趣味」とは言いづらくなった。

【重圧との戦い】

「作業療法士」と「踊り手」の切り替えは容易ではなく、舞台前はできない自分に落ち込む。舞台では、プライベートなど関係なく踊り手の一人として評価されるからだ。師匠に恥をかかせるわけにはいかないと、思いが大きな重圧となる。舞台では、ほかに仕事をもっているからと甘えるわけにはいかない。一方、職場では作業療法士として精一杯、業務と向き合いたい。舞台前は、このような心の葛藤が生まれる。

【大切にされる感覚】

重圧を感じながらも続けているのは「人に大切にされる感覚」を味わえるからだ。私一人の舞台時間のために衣裳や髪、大道具など多くの専門

家が最高の舞台を作るために真剣に技を出し合う。この現場が私は好きだ。そこでは、プライド高い働き方を学び、人に大切にされる感覚を味わい、関わる全ての方々に感謝することができる。

【芸は身を助ける】

日本舞踊には物語があり、さまざまな役を演じる。気持ちが入っていないと師匠に見抜かれ「ハートで踊れ」と指導される。身体の動きはもちろん、わずかな角度や目線、息遣いで伝わり方は変わる。見る人の記憶に残る舞台を目指し、繰り返し稽古をする。

ある医師に「あなたの臨床スタイルは、踊りが影響していますね」と言われたことがある。特に疎通の取りづらい患者には、呼吸を合わせ、体の力加減や表現方法を変えながら想いを伝える。本人の世界を想像し、治療の方向性を真剣に考える。稽古で身に付いた技を自然と使っていると医師の一言に気づかされた。確かに専門家が作り出す舞台は、職場の多職種チームと重ねて考えることができ、目の前の患者が大切にされていると体験できる方法を考えている。

【憧れを現実に】

日本舞踊では行儀をはじめ、見て学び取る力や想像力が鍛えられ、踊りの技だけではない大切なことを身に付けることができる。

幼い頃、憧れた太夫は煌びやかな一面しか見えていなかったが、太夫が「芸と教養も兼ね備えた女性」であると知り、さらに憧れは増した。作業療法士としても踊り手としても品のある心意気高い女性を目指し、今後も努力し続けたい。



2021年度 協会主催研修会案内

COVID-19の影響により、Web開催が中心となりますので、ご了承ください。

開催が決定しているもの、調整中のものを下記に記載いたします。状況により変更があることもご承知おきください。

最新情報はホームページをご確認ください。

※赤字は、前号からの更新・変更です。

認定作業療法士取得研修 共通研修			
講座名	日程(予定を含む)	開催地(予定を含む)	定員数
管理運営②	2021年7月24日(土)～2021年7月25日(日)	Web開催	45名
管理運営③	2021年8月28日(土)～2021年8月29日(日)	Web開催	45名
管理運営④	2021年9月25日(土)～2021年9月26日(日)	Web開催	45名
管理運営⑤	2021年10月23日(土)～2021年10月24日(日)	Web開催	45名
管理運営⑥	2021年11月27日(土)～2021年11月28日(日)	Web開催	45名
管理運営⑦	2021年12月25日(土)～2021年12月26日(日)	Web開催	45名
管理運営⑧	2022年1月29日(土)～2022年1月30日(日)	Web開催	45名
研究法③	2021年8月7日(土)～2021年8月8日(日)	Web開催	40名
研究法④	2021年10月9日(土)～2021年10月10日(日)	Web開催	40名
研究法⑤	2021年11月13日(土)～2021年11月14日(日)	Web開催	40名
研究法⑥	2021年12月11日(土)～2021年12月12日(日)	Web開催	40名
研究法⑦	2022年1月8日(土)～2022年1月9日(土)	Web開催	40名

認定作業療法士取得研修 選択研修			
講座名	日程(予定を含む)	開催地(予定を含む)	定員数
身体障害の作業療法② 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2021年8月28日(土)～2021年8月29日(日)	Web開催	40名
身体障害の作業療法③ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2021年9月4日(土)～2021年9月5日(日)	Web開催	40名
身体障害の作業療法④ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2021年9月25日(土)～2021年9月26日(日)	Web開催	40名
身体障害の作業療法⑤ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2021年10月9日(土)～2021年10月10日(日)	Web開催	40名
身体障害の作業療法⑥ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2021年10月16日(土)～2021年10月17日(日)	Web開催	40名
身体障害の作業療法⑦ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2021年11月27日(土)～2021年11月28日(日)	Web開催	40名
身体障害の作業療法⑧ 急性期から在宅までの対象者への作業療法を考える	2022年1月29日(土)～2022年1月30日(日)	Web開催	40名
老年期障害の作業療法③ 高齢者に対する作業療法	2021年8月21日(土)～2021年8月22日(日)	Web開催	40名
老年期障害の作業療法④ 高齢者に対する作業療法	2021年12月4日(土)～2021年12月5日(日)	Web開催	40名
精神障害の作業療法① 急性期～維持期の実践マネジメント(事例検討)	2021年8月7日(土)～2021年8月8日(日)	Web開催	30名
精神障害の作業療法② 急性期～維持期の実践マネジメント(事例検討)	2021年12月4日(土)～2021年12月5日(日)	Web開催	30名
発達障害の作業療法① 幼児期から学童期の地域支援と家族支援	2021年7月24日(土)～2021年7月25日(日)	Web開催	30名
発達障害の作業療法② 幼児期から学童期の地域支援と家族支援	2021年11月13日(土)～2021年11月14日(日)	Web開催	30名

専門作業療法士取得研修			
講座名	日程(予定を含む)	開催地(予定を含む)	定員数
基礎研修:受講要件はありません。臨床経験や認定取得状況に関わらず、入会后臨床1年目から受講可能です(高次脳機能障害を除く)。			
福祉用具 基礎Ⅰ	2021年9月調整中	Web開催	40名
認知症 基礎Ⅲ	2021年12月調整中	Web開催	40名
特別支援教育 基礎Ⅱ-1	2021年8月調整中	Web開催	40名
高次脳機能障害 基礎Ⅲ	2021年11月調整中	Web開催	40名
精神科急性期 基礎Ⅱ	2021年12月11日(土)～2021年12月12日(日)	Web開催	40名
摂食嚥下 基礎Ⅲ	2021年10月30日(土)～2021年10月31日(日)	Web開催	40名
訪問作業療法 基礎Ⅱ	2021年10月調整中	Web開催	40名
がん 基礎Ⅳ	2021年11月6日(土)～2021年11月7日(日)	Web開催	40名
就労支援 基礎Ⅴ	2021年9月18日(土)～2021年9月19日(日)	Web開催	40名
就労支援基礎Ⅳ・Ⅵ	2021年11月20日(土)～2021年11月21日(日)	Web開催	40名

作業療法重点課題研修			
講座名(仮題を含む)	日程(予定を含む)	開催地(予定を含む)	定員数
MTDLP指導者研修	未定	Web開催	40名
MTDLP教員研修	2021年8月1日(日)	Web開催	100名
教員・実習指導者のためのMTDLPを活用した作業療法教育法①	2021年10月31日(日)	Web開催	60名
教員・実習指導者のためのMTDLPを活用した作業療法教育法②	2022年2月12日(土)	Web開催	60名
放課後デイサービスにおける作業療法研修会	未定	Web開催	80名
英語で学会発表しよう:実践編～WFOT2022に向けたポスター・スライド作成・質疑応答の演習～	2022年1月30日(日)	Web開催	30名
グローバル活動セミナー 海外で働く、学ぶ、生活する～作業療法士が活躍できる海外の選択肢～	2022年2月13日(日)	Web開催	30名
臨床実習指導者実践研修会①	2021年8月29日(日)	Web開催	60名
臨床実習指導者実践研修会②	2021年9月25日(土)	Web開催	60名
臨床実習指導者実践研修会③	2021年10月17日(日)	Web開催	60名
臨床実習指導者実践研修会④	2021年12月11日(土)	Web開催	60名
臨床実習指導者実践研修会⑤	2022年1月29日(土)	Web開催	60名
臨床実習指導者実践研修会⑥	2022年2月11日(金)	Web開催	60名

厚生労働省指定 臨床実習指導者講習会			
講座名	日程(予定を含む)	開催地(予定を含む)	定員数
厚生労働省指定 臨床実習指導者講習会②	2021年11月6日(土)～2021年11月7日(日)	Web開催	100名

がんのリハビリテーション研修会			
講座名	日程(予定を含む)	開催地(予定を含む)	定員数
がんのリハビリテーション研修会	2021年10月23日(土)	Web開催	
詳細は後日協会ホームページに掲載いたします。			
eラーニング講座			
講座名	日程(予定を含む)	開催地(予定を含む)	定員数
各講座の申込期間について、詳しくは会員ポータルサイトをご確認ください。			
専門作業療法士(認知症)取得研修 基礎Ⅰ	2021年8月1日(日)～2021年9月30日(木)	eラーニングシステム使用	
専門作業療法士(高次脳機能障害)取得研修 基礎Ⅳ	2021年8月1日(日)～2021年9月30日(木)	eラーニングシステム使用	
がん・非がんの緩和ケア～作業療法実践に必要な緩和ケアの知識～	2021年8月1日(日)～2021年9月30日(木)	eラーニングシステム使用	

英語での学会発表 抄録・ポスター・スライド作成はじめて講座	2021年8月1日(日)～2021年9月30日(木)	eラーニング システム使用	
専門作業療法士(訪問)取得研修 基礎I	2021年8月1日(日)～2021年9月30日(木)	eラーニング システム使用	
専門作業療法士(摂食嚥下)取得研修 基礎I	2021年8月1日(日)～2021年9月30日(木)	eラーニング システム使用	

生涯教育講座案内【都道府県作業療法士会】

現職者選択研修						
講座名	日程	主催県士会	会場	参加費	定員	詳細・問合せ先
老年期障害	2021年7月25日(日)	山口県	Web開催	4,000円	50名	詳細につきましては、山口県作業療法士会ホームページをご覧ください。
* 精神障害	2021年8月29日(日)	福島県	Web開催	4,000円	50名	詳細につきましては、福島県作業療法士会ホームページをご覧ください。県内会員・東北会員を優先としており、お断りする場合がございます。
* 身体障害	2021年9月4日(土)	石川県	Web開催	4,000円	60名	詳細につきましては、石川県作業療法士会ホームページをご覧ください。
* 発達障害	2021年9月18日(土)	静岡県	Web開催	4,000円	80名	詳細につきましては、静岡県作業療法士会ホームページをご覧ください。
* 身体障害	2021年10月3日(日)、 10月10日(日)	奈良県	Web開催	4,000円	50名	詳細につきましては、奈良県作業療法士会ホームページをご覧ください。
* 老年期障害	2021年10月9日(土)	岩手県	Web開催	4,000円	50名	詳細につきましては、岩手県作業療法士会ホームページをご覧ください。
精神障害	2021年10月17日(日)	島根県	Web開催	4,000円	40名	詳細につきましては、島根県作業療法士会ホームページをご覧ください。
* 発達障害	2022年1月30日(日)	群馬県	Web開催	4,000円	50名	詳細につきましては、群馬県作業療法士会ホームページに掲載予定です。

*は新規掲載分です。

★現職者選択研修の受講には、日本作業療法士協会への入会とともに、各都道府県士会への入会も必要です。所属士会以外で受講される場合には、開催士会から所属士会へ入会状況の確認をさせていただくことがありますので、ご了承の上、お申込みください。

■ 詳細は、日本作業療法士協会のホームページをご覧ください。

■ 協会主催研修会の問い合わせ先 電話：03-5826-7871 FAX：03-5826-7872 E-mail：ot-kenshu@jaot.or.jp

「医療福祉eチャンネル」の単位認定番組(自宅受講、ポイント取得可)



現職者共通研修プログラム対応番組

1講座(番組)あたり、1.5時間の単位認定を受けることができます。

1. 作業療法生涯教育概論
2. 作業療法における協業・後輩育成
3. 職業倫理
4. 保健・医療・福祉・地域支援
5. 実践のための作業療法研究
6. 作業療法の可能性
7. 日本と世界の作業療法の動向
8. 事例報告と事例研究

「生活行為向上マネジメント：基礎編」

生活行為向上マネジメントマニュアルを用い、その概論、各種シートの使用法について学びます。

※新規登録の際には必ず「日本作業療法士協会会員の方」を選択してください。

※医療福祉eチャンネルでの単位認定には「履修登録」と「受講管理料」が必要となります。

単位認定は、日本作業療法士協会
会員ポータルサイトに反映されます

医療・福祉の動画配信サイト

医療福祉 eチャンネル

☎ 0120-870-774 (前9:00～後5:00/土・日・祝を除く)

E-mail: info@iryoufukushi.com URL: http://www.ch774.com





協会刊行物・配布資料一覧

資料名	略称	税込価格
パンフレット 一般向け協会パンフレット (作業療法ってなんですか?)	パンフ OT	無料 (送料負担) ※ただし、1年につき50部を超える場合は、有料。
一般向け協会パンフレット (INFORMATION BOOK 1) 英語版	パンフ英文	
入会案内	パンフ入会	
ポストカード ポストカード第1集 ポスター編 (7枚セット)	ポストカード①	306円
広報 DVD 身体障害者に対する作業療法	広報 DVD 身体	各 4,074円
精神障害に対する作業療法	広報 DVD 精神	
作業療法関連用語解説集 改訂第2版 2011	用語解説集	1,019円
作業療法白書 2015	白書 2015	2,037円
日本作業療法士協会五十年史	五十年史	3,056円

作業療法マニュアルシリーズ

資料名	略称	税込価格	資料名	略称	税込価格	
31: 精神障害: 身体に働きかける作業療法	マ 31 精神・身体	各 1,019円	58: 高次脳機能障害のある人の生活・就労支援	マ 58 高次生活・就労	各 1,019円	
35: ヘルスプロモーション	マ 35 ヘルスプロモ		60: 知的障害や発達障害のある人への就労支援	マ 60 知的・発達・就労		
36: 脳血管障害に対する治療の実践	マ 36 脳血管		61: 大腿骨頸部/転子部骨折の作業療法 第2版	マ 61 大腿骨第2版		
37: 生活を支える作業療法のマネジメント 精神障害分野	マ 37 マネジメント		62: 認知症の人と家族に対する作業療法	マ 62 認知家族		
41: 精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム	マ 41 退院促進		63: 作業療法士ができる地域支援事業への関わり方	マ 63 地域支援		
*42: 訪問型作業療法	マ 42 訪問		64: 栄養マネジメントと作業療法	マ 64 栄養		
43: 脳卒中急性期の作業療法	マ 43 脳急性期		65: 特別支援教育と作業療法	マ 65 特別支援		
46: 呼吸器疾患の作業療法②	マ 46 呼吸器②		66: 生活行為向上マネジメント 改訂第3版	マ 66 MTDLP		2,200円
47: がんの作業療法① 改訂第2版	マ 47 がん①		67: 心大血管疾患の作業療法 第2版	マ 67 心大血管		1,760円
48: がんの作業療法② 改訂第2版	マ 48 がん②	68: 作業療法研究法 第3版	マ 68 研究法	1,100円		
50: 入所型作業療法	マ 50 入所型	69: ハンドセラピー 第2版	マ 69 ハンド第2版	1,760円		
51: 精神科訪問型作業療法	マ 51 精神訪問	70: 認知症初期集中支援-作業療法士の役割と視点-第2版	マ 70 認知症初期	1,320円		
52: アルコール依存症者のための作業療法	マ 52 アルコール依存	71: 生活支援用具と環境整備 I -基本動作とセルフケア-	マ 71 生活支援用具 I	1,760円		
53: 認知機能障害に対する自動車運転支援	マ 53 自動車運転	72: 生活支援用具と環境整備 II -IADL・住宅改修・自助具・社会参加-	マ 72 生活支援用具 II	2,200円		
54: うつ病患者に対する作業療法	マ 54 うつ病					
55: 摂食嚥下障害と作業療法 -吸引の基本知識も含めて-	マ 55 摂食・嚥下					

【申し込み方法】

お問い合わせは協会事務局までお願いします。

申し込みは、協会ホームページもしくは機関誌に掲載されている FAX 注文用紙、またはハガキにてお申し込みください。

注文の際の資料名は、略称でかまいません (上の表をご参照ください)。有料配布物は当協会員からのお申し込みの場合、送料は協会が負担します。購入者が非会員や団体等の場合および申し込み者が会員であっても請求書宛名が団体の場合は別途送料 (実費) をご負担いただきます (ただし、都道府県士会からの申込み分は送料無料)。無料配布パンフレットは、送料のみ負担となります。

有料配布物の場合は請求書・郵便振込通知票が同封されてきます。なるべく早くお近くの郵便局から振り込んでください。

不良品以外の返品は受け付けておりません。

* 在庫僅少

※資料名は略称で結構です。

無料刊行物・配布資料

資料名	部数	資料名	部数
※協会広報活動の参考にしますので、使用目的をお書き下さい			

有料刊行物・配布資料

資料名	部数	資料名	部数

会員番号

氏 名

※当協会の方々は、登録されている住所に送付いたします。登録住所に変更がある場合は変更手続きを行ってください。

非会員の方のみ会員番号欄に住所（〒を含む）、電話番号を記載してください。

※都道府県士会の広報活動等で使用される場合は、士会事務局に送付している専用申し込み用紙にて送付してください。

その場合、枚数制限はございません。

訪問看護ステーションをめぐる利害構造と 作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の政治的目覚め

日本作業療法士連盟 鹿児島県責任者 川本 愛一郎



今年（2021年）3月の介護報酬改定（以下、改定）に先立ち、2020年11月17日に、社会保障審議会介護給付費分科会で「訪問看護ステーションの人員配置基準において、看護職員が指定訪問看護の提供にあたる従業員に占める割合を6割以上とする要件を設けてはどうか」との提案がなされた。

背景には、リハビリテーション職による訪問看護ステーション（以下、訪問ST）の起業増加とセラピスト訪問件数の増加に対して「不快な思いをしている関係団体からの政治的圧力」と「国の介護報酬抑制策」が一致したことがあると思われる。いずれも「本当に訪問リハビリテーションサービスを必要としている国民を考慮していない」規制である。また、2006年の看護師1名対リハビリテーション職1名の1対1規制（2012年撤廃）から続いている問題でもある。

この規制への取り組みは、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の政治活動への目覚めと組織強化につながった。

今回の規制に反対の声を上げた利用者さんたち

今回の看護師6割配置問題では、規制が実施されると約8万人の利用者さんが訪問リハビリテーションサービスを受けられなくなり、約5,000人の作業療法士、理学療法士、言語聴覚士が職を失うことになる。

先の1対1規制問題で強化された作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の3協会と3連盟、理学療法士の免許をもつ国会議員の組織的活動と全国的な反対署名活動により「看護師6割配置は実施しない」となった。

筆者が経営する事業所では、訪問看護ST事業も展開しているが、規制反対署名活動に利用者さんと家族、スタッフが積極的に動き計600名分の署名が集まった。

署名活動期間中に、利用者さんの家族が筆者に「近所の方に署名していただきました！」と15名分の署名をわざわざ届けてくださった。届いた署名を見た時、涙が出るほどうれしかった。しっかりと想いを届けようと心に誓った。

今回は、鹿児島県内のリハビリテーション起業者も積極的に反対署名活動に動いてくれた。日頃のネットワークが大切と再認識した。

政治活動は身近な生活者問題から始めよう！

政治活動は、身近な生活問題や政策への関わりから始めてもいいと思うようになった。筆者の住む地域では、筆者が介護施設を運営していること、作業療法士であることもあり、道の駅改築時や市役所新築時の障害者、高齢者のトイレの配置やドア様式、広さ、動線上の障害物、屋根付き駐車場への意見交換会への出席を、知り合いの市議から求められたことがあった。

また地域の自治会活動、ゴミ集積場問題、通学路、跨線橋などの安全問題への取り組みを通して、市政へ反映させることも立派な政治活動と考える。もちろん作業療法士の政治組織活動の母体として、日本作業療法士連盟活動も重要であることは言うまでもない。

鹿児島県での作業療法士連盟支部活動は、まだ準備段階であるが、共通する身近な地域生活問題に作業療法士が関わることから始めたいと考える。

訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

会員番号 342 椎名喜美子（神奈川）6月18日逝去



東京オリンピック・パラリンピックの開催も間近となりました。本誌に掲載されているようにパラリンピックで選手をサポートする作業療法士の事例もあり、スポーツ参加に関わる作業療法士の取り組みを知る機会も増えてきました。毎年、国体と同時開催される全国障害者スポーツ大会でも、開催される都道府県の作業療法士が運営に関わっています。今年は三重県、来年は栃木県、再来年は鹿児島県が開催予定地です。「見る」以外の関わり方があることを知るだけでも身近に感じ、今までにないスポーツの楽しみ方を想像できる機会となっているように思います。

(山口)

本誌に関するご意見、お問い合わせがございましたら下記までご連絡ください。

E-mail kikanshi@jaot.or.jp

■ 2020 年度の確定組織率

61.4% (会員数 61,296 名 / 有資格者数 99,776 名^{*})

^{*} 2021 年度は会員数がまだ確定していないため組織率の算定ができません。当協会の最新の組織率としては、理事会の承認を得て確定した 2020 年度の会員数に基づくこの数値をご利用ください。

■ 2021 年 6 月 1 日現在の作業療法士

有資格者数 104,286 名^{*}

会員数 62,112 名

社員数 249 名

認定作業療法士数 1,184 名

専門作業療法士数 (延べ人数) 114 名

■ 2020 年度の養成校数等

養成校数 201 校 (210 課程)

入学定員 7,950 名

^{*} 有資格者数の数値は、過去の国家試験合格者数を単純に累計した数に、本会が把握し得た限りでの外国で取得した免許から日本国免許へ切り換えた者に加え、死亡退会者数 (258 名) を除いた数として示していますが、免許証の未登録、取り消し、本会が把握し得ない死亡その他の理由による消除の結果生じた減数分は算入されていません。

日本作業療法士協会誌 (毎月 1 回発行)

第 112 号 2021 年 7 月 15 日発行

□ 広報部 機関誌編集委員会

委員長：香山 明美

委員：関本 充史、岡本 宏二、磯野 弘司、野崎 智仁、岡村 忠弘、米井 浩太郎、浅倉 恵子、山口 理貴

編集スタッフ：宮井 恵次、遠藤千冬、大胡 陽子、谷津 光宏

表紙デザイン：渡辺美知子デザイン室 / 制作・印刷：株式会社サンワ

発行所 〒111-0042 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル

一般社団法人 日本作業療法士協会 (TEL.03-5826-7871 FAX.03-5826-7872)

■ 協会ホームページアドレス <https://www.jaot.or.jp/>

□ 求人広告：1/4 頁 1 万 3 千円 (賛助会員は割引あり)

肩までお湯につかったとき、
あきらめないで
よかったと思いました。

お風呂に入ることは、体を清潔にするだけでなく、心も喜びで満たすこと。様々な理由で、それができなくなったとき、多くの人が入浴の大切さに気づきます。でも、何もあきらめることはありません。再びお風呂に入ることができるようになったあなたの前よりも嬉しそうな顔が私たちには見えます。

人の生きる喜びは、
生活のなかにある。



ひと仕事をするって、
元気になる。



一般社団法人

日本作業療法士協会
Japanese Association of Occupational Therapists

一般社団法人 日本作業療法士協会 東京都台東区寿 1-5-9 盛光伸光ビル
TEL.03-5826-7871 www.jaot.or.jp

